令和元年度

# 事　業　報　告　書

（平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日まで）

学校法人　高知学園

－目　　次－

頁

## Ⅰ　法人の概要

［１］　教育方針　2

［２］　学校法人の沿革　4

［３］　設置する学校等の状況　7

［４］　設置する学校等の学生生徒等数の状況　10

［５］　役員・評議員の概要　11

［６］　教職員の概要　14

## Ⅱ　設置学校の事業報告

［１］　高知リハビリテーション専門職大学　15

［２］　高知学園短期大学　18

［３］　高知中学高等学校　31

［４］　高知小学校　39

［５］　高知学園短期大学附属高知幼稚園　45

［６］　高知リハビリテーション学院　48

# Ⅰ　法人の概要

本学園は、明治 32 年、現在の高知市桜井町に創立された「江陽学舎」が前身で、令和 元 年度には創立 120 周年を迎えた。創立者は、独学で漢学や英語を習得された信清権馬（南国市出身）である。

学園の沿革をたどると、大正 8 年に城東商業学校を設置し、昭和 23 年に新教育制度により城東高等学校、城東中学校を設置した。昭和 26 年に川島源司（昭和 37 年に初代学園長に就任）が同高等学校、中学校の学校長に就任され、昭和 27 年には幼稚園を設置した。昭和 31 年には校名を高知高等学校、高知中学校に改称、昭和 32 年に現在地に移転し、同年に小学校を設置して、総合学園としての基礎が確立された。

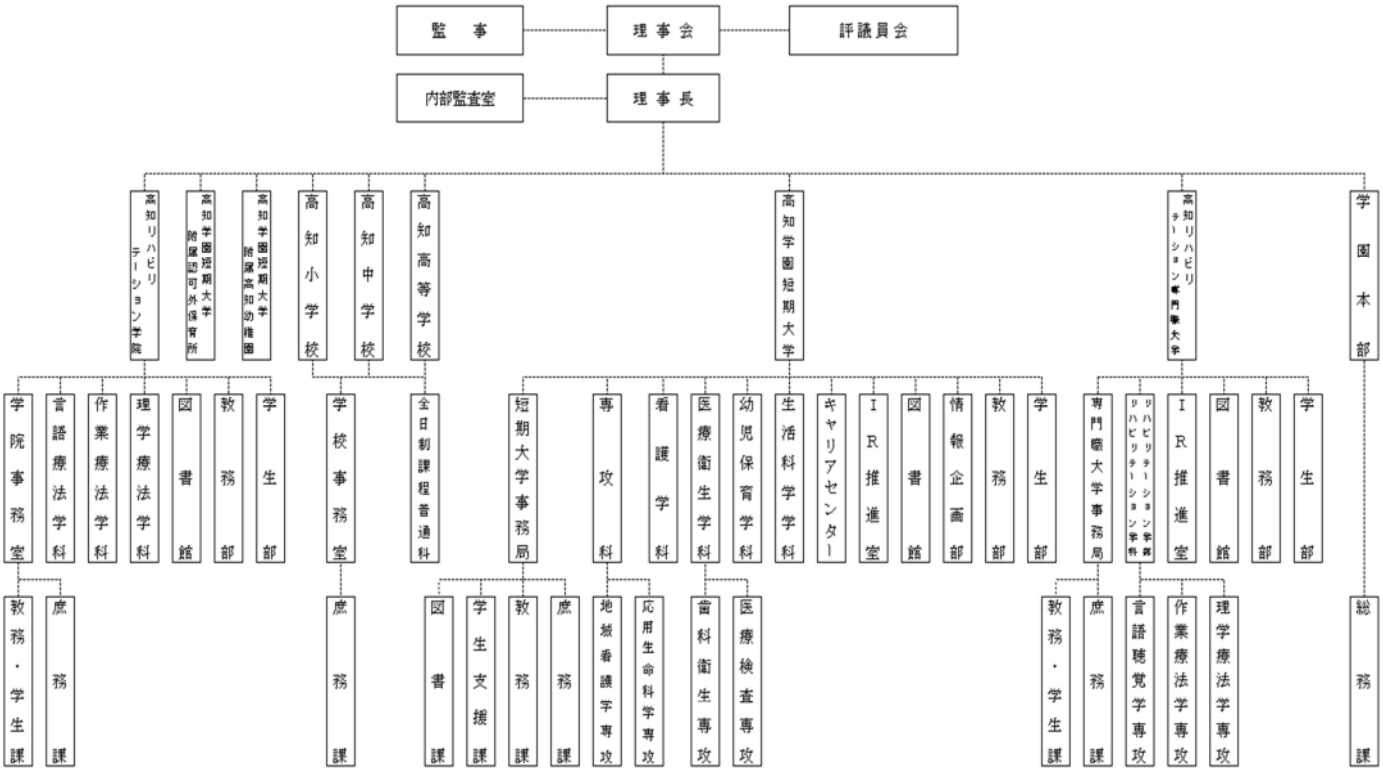
昭和 42 年に短期大学を、昭和 43 年にリハビリテーション学院を設置、平成 31 年 4 月には、全国に先駆けて実践的・創造的な専門職業人の養成を目的とした高知リハビリテーション専門職大学を開学した。

現在では、幼稚園から小学、中学、高校、短大、リハビリテーション学院、リハビリテーション専門職大学までの 7 部門で運営し、合わせて 2,573 人の児童、生徒、学生たちが学んでいる。

令和 2 年 4 月から高知学園短期大学の学科構成を 4 学科 2 専攻から 3 学科に改組し、高知県では唯一となる私立大学として地域の健康と発展に貢献する人材の養成を行うため、1 学部 2 学科の四年制大学「高知学園大学」を開学することとした。大学から幼稚園までを擁する充実した総合学園として更なる発展を目指している。

高　知　学　園　組　織　図

（令和元年５月１日現在）



## ［1］ 教　育　方　針

幼稚園から短期大学、リハビリテーション学院までを一貫するこの高知学園の教育の基本姿勢に関し、川島学園長は次の如く述べているが、これこそ初代学園長の長期にわたる教育体験に基調し、その念願とするところを思いきり盛り込んだもので、現在、将来を通じての学園憲法の性格を持ち、本学園の明日の盛衰は、この活用の如何によるといえよう。

今後の日本の政治、経済、産業、文化その他のすべての方面のあり方が、世界一環としてのものでなければならないことは、戦前よりはるかに高度の深さをもつにいたりました。と同時に、科学の急激なる進歩を中心に、今後世界の動きを出来得る範囲に見通し、これにそぐう教育方針でなければならぬと思います。

したがって今後の教育は、日本の長所を認識し、それに立脚すべきであります。由来、日本人には数々の長所がありますが、一面に島国根性に出発した大きな欠陥があり、同時にその日本の中でも別して高知県は他府県に比べて長所、短所が著しいのであります。そのため高知県内の学校教育はこの日本の長所、高知県の長所を伸展すると共に、世界先進国の長所をとり、日本及び高知県の短所を補うことを、教育の出発点としなければなりません。この見地から一面社会道徳の向上を計ると共に、一面学科においても科学教育と英語教育に重点をおくべきであると存じます。

国家の興隆と個人の幸福は、教育がその根源でなくてはなりません。本学園におきましては、教育の常道を歩むためしは、如何なることをなすにも、すべて至誠をもって事に当たるという人間修行の根幹の精神を生徒の基本精神としております。至誠をもって事に当たれば必ず(1)「正を行い邪を退ける真の勇気」と(2)「何事をなすにも、到るところに到らざれば止まざる精神」を生じ、従って「人一度してこれをよくすれば、己はこれを百度し、人十度してこれをよくすれば、己はこれを千度する」との強い精神が生まれ、更に「今日の己は昨日の己に非ず、明日の己は今日の己に非ず」との進取の気性がおのずから湧いてくるのであります。こうした修行を日々生徒が自己の課業ならびに生活を通じて絶えず反復これつとめれば、必ず他人に信頼される人となるでありましょう。この「人に信頼される人物の育成」こそ本学園教育の第一の着眼点であります。

すべて生徒の日々の課業ならびに生活は、生徒の自主性を本体としなくてはならないことはいうまでもありませんが、自主性を尊重すればなおさらに、教師の指導力の強化を必要とし、ここにはじめて真の人物を作り得るのであります。

教育は生徒を中心として、教育者、父兄、卒業生が一丸となって当たらなければ、その真の効果は得られないのでありますが、しかし、何はともあれ、その根源は教育者自体にあります。生徒をして正道を歩ましめるためには、まず教育者自身が教育の本道を歩まなければなりません。生徒をして自発的に研究し、学習せしめるためには絶えず研究者自身が研究し

なくてはなりません。生徒として健全な精神を養成せしめるためには、教育者が生徒と共に自らの修行を怠ってはなりません。

本学園には短期大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園、リハビリテーション学院の６つがありますが、私立学校は万事において十分に伸び得る可能性を持ち、教育の最高峰を歩むべき使命があります。その使命達成に向かって日々その実績をあげることに努めるべきであります。

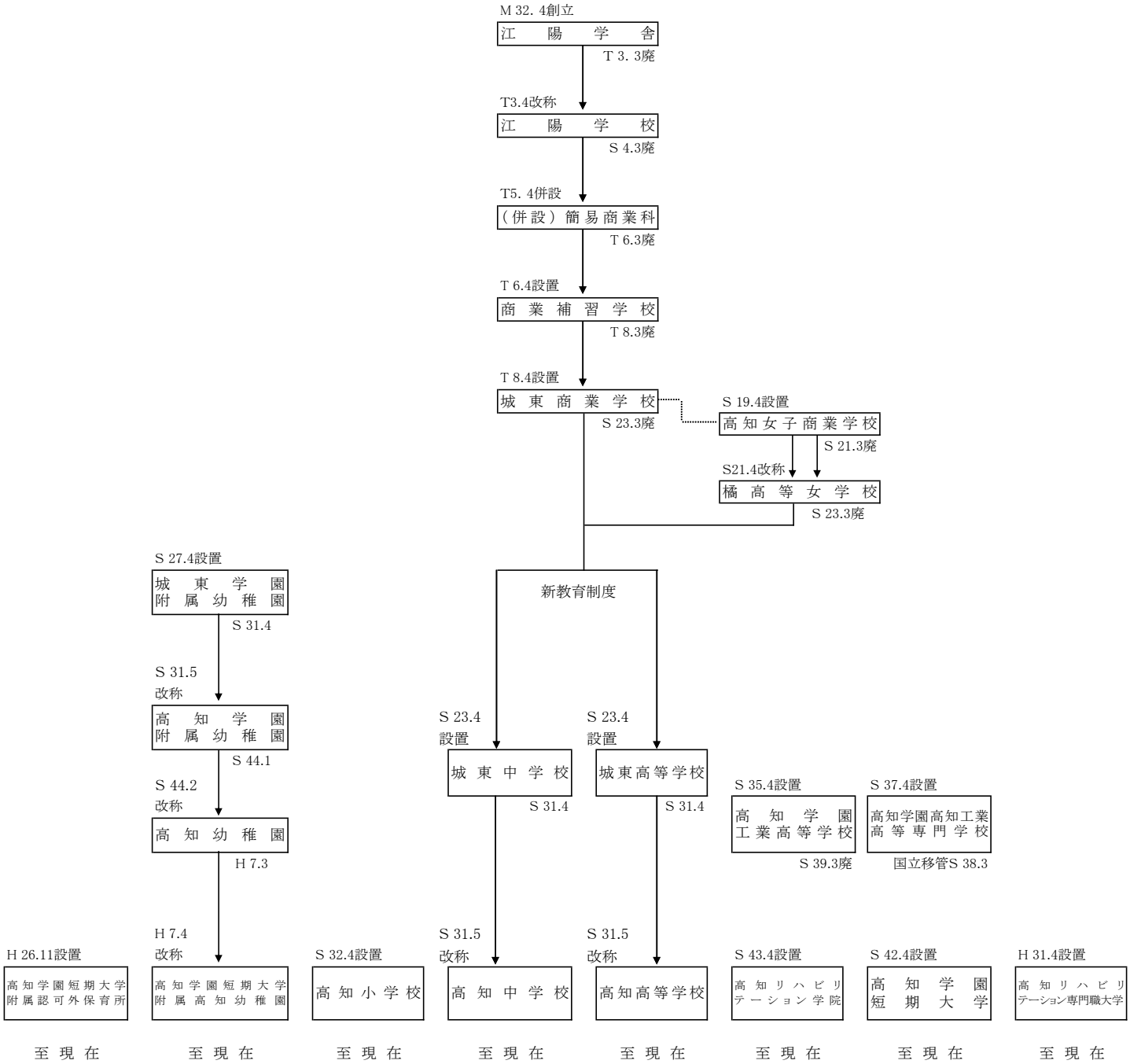
（昭和５３年３月１２日発行　川島源司伝より）

## ［ ２ ］ 学校法人の沿革

| | | |
|---|---|---|
| 法人の沿革 | 明治３２年　４月 | 高知市中新町に江陽学舎創立（創立者　信清　権馬） |
| | 明治３９年　４月 | 高知市中新町より北新町８４に移転 |
| | 大正　３年　４月 | 江陽学舎を江陽学校と改称 |
| | 大正　６年　４月 | 江陽学校に簡易商業科併設 |
| | 大正　６年　４月 | 簡易商業科を廃止し、商業補習学校設置 |
| | 大正　７年１２月 | 乙種商業学校文部大臣認定 |
| | 大正　８年　４月 | 商業補習学校を廃止し、城東商業学校（乙種修業年限３年）設置 |
| | 大正１０年１２月 | 財団法人城東商業学校設置 |
| | 大正１５年　３月 | 城東商業学校を甲種（修業年限５年）に昇格 |
| | 昭和　４年　３月 | 江陽学校廃止 |
| | 昭和１９年　４月 | 高知女子商業学校設置 |
| | 昭和２１年　４月 | 高知女子商業学校を橘高等女学校と改称 |
| | 昭和２３年　３月 | 新教育制度により城東高等学校、城東中学校設置 |
| | 昭和２６年　３月 | 財団法人城東高等学校を学校法人城東高等学校に組織変更 |
| | 昭和２７年　４月 | 学校法人城東高等学校を学校法人城東学園に組織変更、城東学園附属幼稚園設置 |
| | 昭和３１年　５月 | 学校法人城東学園を学校法人高知学園に組織変更、城東高等学校を高知高等学校（普通科、商業科）に、城東中学校を高知中学校に、城東学園附属幼稚園を高知学園附属幼稚園に改称 |
| | 昭和３１年１２月 | 高知小学校設置認可 |
| | 昭和３２年　３月 | 高知市北新町より高知市北端町１００番地に移転 |
| | 昭和３２年　４月 | 高知小学校設置 |
| | 昭和３４年　９月 | 高知学園附属幼稚園園舎を高知市北新町２の１２２に移転 |
| | 昭和３５年　１月 | 高知学園高知工業高等学校設置 |
| | 昭和３７年　１月 | 高知学園高知工業高等専門学校設置 |
| | 昭和３８年　３月 | 高知高等学校の商業科廃止 |
| | | 高知学園高知工業高等専門学校廃止（国立高知工業高等専門学校に移管のため） |
| | 昭和３９年　３月 | 高知学園高知工業高等学校廃止 |
| | 昭和４２年　１月 | 高知市旭天神町字陣ヶ森２９２の２６に高知学園短期大学設置認可（食物栄養科） |
| | 昭和４２年　３月 | 高知学園短期大学食物栄養科を栄養士養成課程として指定 |
| | 昭和４３年　２月 | 高知学園短期大学に衛生技術科設置認可、高知リハビリテーション学院設置認可（各種学校　修業年限３年） |
| | 昭和４３年　３月 | 高知学園短期大学食物栄養科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（中学校教諭二級普通免許（保健・家庭）） |
| | | 高知リハビリテーション学院を理学療法士及び作業療法士法第１１条第１号の規定による理学療法士養成施設として指定 |
| | 昭和４３年　４月 | 高知学園短期大学衛生技術科を衛生検査技師養成学校として指定 |
| | 昭和４４年　２月 | 高知学園短期大学に幼児教育科設置認可、高知学園短期大学幼児教育科を保母養成学校として指定、高知学園短期大学幼児教育科を幼稚園教諭二級普通免許を得させるための課程として認定 |
| | | 高知学園附属幼稚園を高知幼稚園と改称、園舎を高知市北新町より高知市北端町１００番地に移転 |
| | 昭和４５年　１月 | 高知学園短期大学に保健科設置認可 |
| | 昭和４５年　２月 | 高知学園短期大学保健科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（中学校教諭二級普通免許（保健）、養護教諭二級普通免許） |
| | 昭和４５年　４月 | 高知学園短期大学保健科を歯科衛生士学校養成所指定規則第２条の規定に基づき歯科衛生士養成学校として指定 |
| | 昭和４６年　４月 | 高知学園短期大学衛生技術科を臨床検査技師学校養成所指定規則第２条の規定に基づき臨床検査技師養成学校として指定 |
| | 昭和５０年　３月 | 高知リハビリテーション学院の修業年限３年を４年に変更承認 |
| | 昭和５３年１２月 | 高知学園短期大学に専攻科設置（幼児教育専攻科修業年限１年） |

| | | |
|---|---|---|
| 法人の沿革 | 昭和５５年１２月 | 高知リハビリテーション学院を各種学校から専修学校として認可 |
| | 昭和６２年１２月 | 高知学園短期大学保健科に保健専攻、歯科衛生専攻設置 |
| | 昭和６３年　１月 | 高知学園短期大学保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定（中学校教諭二種普通免許（保健）、養護教諭二級普通免許） |
| | 昭和６３年　３月 | 高知学園短期大学保健科歯科衛生専攻を歯科衛生士学校養成所指定規則第３条第１項の規定に基づき歯科衛生士学校として指定 |
| | 平成　２年　３月 | 高知学園短期大学食物栄養科、幼児教育科及び保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の正規の課程として認定　　食物栄養科・中学校教諭二種免許状（家庭）、幼児教育科・幼稚園教諭二種免許状、保健科保健専攻・中学校教諭二種免許状（保健）、養護教諭二種免許状 |
| | 平成　５年　４月 | 高知リハビリテーション学院に作業療法学科設置（理学療法士及び作業療法士法第１２条第１号の規定による作業療法士養成施設として指定） |
| | 平成　７年　４月 | 高知幼稚園を高知学園短期大学附属高知幼稚園と改称 |
| | 平成　９年　４月 | 高知リハビリテーション学院に言語療法学科設置 |
| | 平成１０年１０月 | 高知リハビリテーション学院校舎を土佐市高岡町乙１１３９－３に移転 |
| | 平成１１年　４月 | 高知リハビリテーション学院言語療法学科を言語聴覚士法第33条第１号及び附則第２条の規定による言語聴覚士養成所として指定 |
| | 平成１２年　２月 | 高知学園短期大学幼児教育科及び保健科保健専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を習得させるための大学の正規の課程として認定　　幼児教育科・幼稚園教諭二種免許状　　保健科保健専攻・中学校教諭二種免許状（保健）、養護教諭二種免許状 |
| | 平成１３年　３月 | 高知学園短期大学専攻科（幼児教育専攻）廃止 |
| | 平成１３年　４月 | 高知学園短期大学専攻科（応用生命科学専攻）設置 |
| | 平成１７年　４月 | 高知学園短期大学食物栄養科を生活科学学科に、幼児教育科を幼児保育学科に科名変更 |
| | 平成１７年１２月 | 高知リハビリテーション学院理学療法学科・作業療法学科・言語療法学科の修了者に対し「高度専門士」の称号を付与することができる学校として指定 |
| | 平成１８年　３月 | 高知学園短期大学保健科保健専攻廃止 |
| | 平成１８年　４月 | 高知学園短期大学に医療衛生学科設置 |
| | | 高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻、歯科衛生専攻を臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律第１５条第１号、歯科衛生士法第１２条第1号に定める学校として指定 |
| | 平成１９年１０月 | 高知学園短期大学看護学科を保健師助産師看護師法第21条第1項に定める学校として指定 |
| | 平成１９年１２月 | 高知学園短期大学看護学科を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定　養護教諭二種免許状 |
| | 平成２０年　３月 | 高知学園短期大学衛生技術科及び保健科歯科衛生専攻廃止 |
| | 平成２０年　４月 | 高知学園短期大学看護学科設置 |
| | 平成２２年　８月 | 高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻を保健師助産師看護師法第19条第1号に定める学校として指定 |
| | 平成２３年　２月 | 高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻を教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定　養護教諭一種免許状 |
| | 平成２３年　４月 | 高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻設置 |
| | 平成２６年１１月 | 高知学園短期大学附属認可外保育所設置 |
| | 平成２９年　２月 | 高知リハビリテーション学院を職業実践専門課程として認定 |
| | 平成３０年１０月 | 高知リハビリテーション専門職大学設置認可 |
| | 平成３１年　１月 | 高知学園短期大学生活科学学科、幼児保育学科及び看護学科を教員の免許状授与の所要資格を得させるための学科等の課程として認定　栄養教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状、養護教諭二種免許状<br>高知学園短期大学専攻科地域看護学専攻を教員の免許状授与の所要資格を得させるための専攻科の課程として認定　養護教諭一種免許状 |
| | 平成３１年　４月 | 高知リハビリテーション専門職大学設置 |
| | 令和　元年１１月 | 高知学園大学設置認可 |

# 学校法人高知学園の沿革



## ［３］ 設置する学校等の状況

### 高知学園設置学校等

令和元年 5月 1日現在

| 学校名等 | 学長、校長、園長、学院長<br>及び副学長、部長、館長、室長、教頭 等 | | 電話 |
|---|---|---|---|
| 高知学園本部<br>高知市旭天神町292-26 | 理事長<br>本部長 | 吉良正人<br>東好男 | 代 840-1167 |
| 高知リハビリテーション専門職大学<br>土佐市高岡町乙1139-3 | 学長<br>副学長<br>学部長（兼）<br>教務部長<br>学生部長<br>図書館長<br>IR推進室長（兼） | 小嶋裕<br>大倉三洋<br>濱田和範<br>清岡学<br>山﨑裕司 | 代 850-2311 |
| 高知学園短期大学<br>高知市旭天神町292-26 | 学長<br>情報企画部長(兼)<br>学生部長<br>教務部長<br>IR推進室長（兼）<br>図書館長 | 小島一久<br>大野由香<br>吉村斉<br>今井正 | 代 840-1121 |
| 高知高等学校<br>高知市北端町100 | 校長<br>副校長 | 森曉<br>石井全 | 代 840-1111 |
| 高知中学校<br>高知市北端町100 | 校長<br>副校長<br>教頭 | 森曉<br>田中敏彦<br>久保明弘 | 代 840-1111 |
| 高知小学校<br>高知市北端町100 | 校長<br>教頭 | 友村憲朗<br>岡村佐由紀 | 代 840-1111<br>直 844-4331 |
| 高知学園短期大学附属高知幼稚園<br>高知市北端町100 | 園長 | 山本勝子 | 代 840-1121<br>直 840-5005 |
| 高知リハビリテーション学院<br>土佐市高岡町乙1139-3 | 学院長<br>副学院長<br>教務部長（兼）<br>学生部長<br>図書館長 | 大倉三洋<br>濱田和範<br>清岡学<br>山﨑裕司 | 代 850-2311 |

# 高　知　学　園　配　置　図

● 高　知　学　園　本　部
● 高　知　学　園　短　期　大　学
【所在地】高知市旭天神町292-26

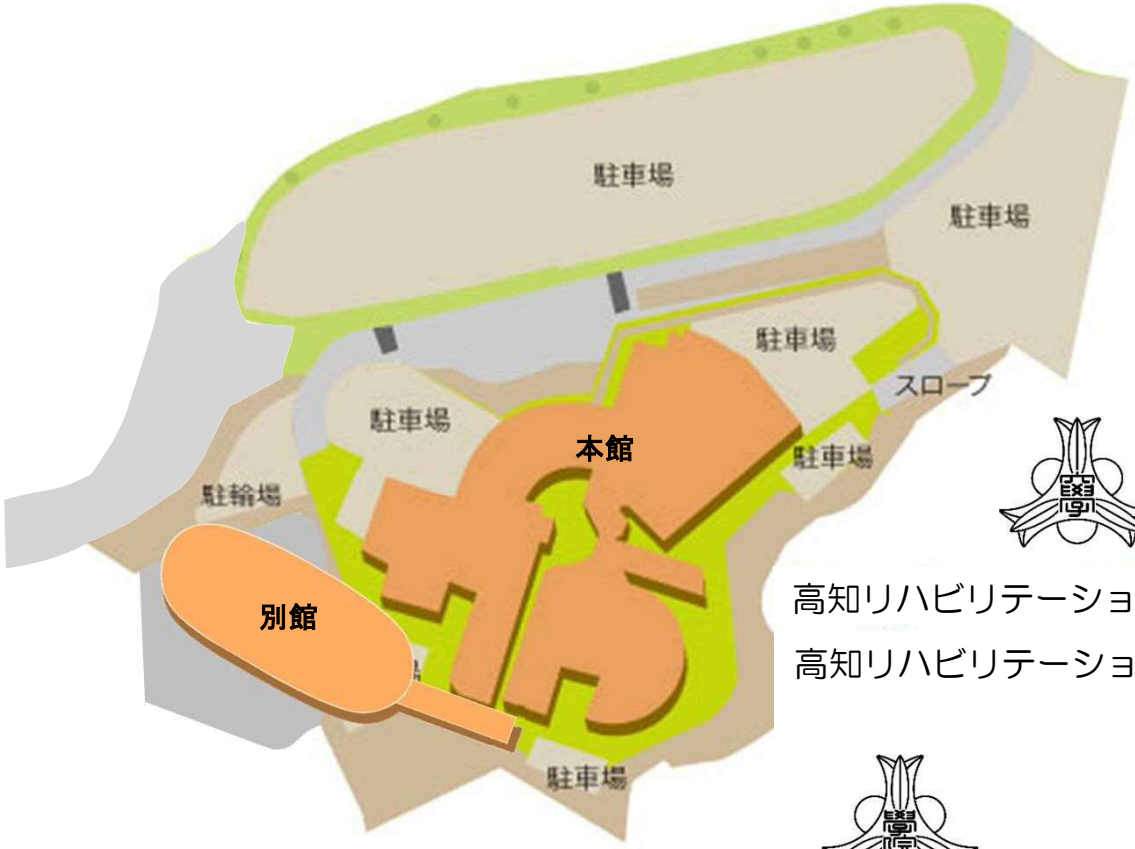
● 高　知　高　等　学　校
● 高　知　中　学　校
● 高　知　小　学　校
● 高知学園短期大学附属高知幼稚園（認可外保育所併設）
【所在地】高知市北端町100番地

| | 学校名<br>(所在地) | 校地<br>現有面積 | 校舎<br>現有面積 |
|---|---|---|---|
| | 高知学園本部・高知学園短期大学<br>( 高知市旭天神町292-26 ) | 50,578.98 ㎡ | 15,112.00 ㎡ |
| 校　地 | 高知高等学校・高知中学校・高知小学校<br>( 高知市北端町100番地 ) | 87,999.43 ㎡ | 25,765.00 ㎡ |
| 校　舎 | 高知学園短期大学附属高知幼稚園<br>( 高知市北端町100番地 ) | 1,837.00 ㎡ | 836.00 ㎡ |
| | 合計 | 140,415.41 ㎡ | 41,713.00 ㎡ |

● 高知リハビリテーション専門職大学
● 高知リハビリテーション学院

【所在地】土佐市高岡町乙1139-3

| | 学校名 | 校　　地 | 校　　舎 |
|---|---|---|---|
| 校　　地 | (所在地) | 現有面積（借用） | 現有面積 |
| 校　　舎 | 高知リハビリテーション専門職大学<br>高知リハビリテーション学院<br>（土佐市高岡町乙1139-3） | 26,353.96 ㎡ | 9,596.12 ㎡ |
| | 合計 | 26,353.96 ㎡ | 9,596.12 ㎡ |




高知リハビリテーション専門職大学
高知リハビリテーション学院

## ［ ４ ］ 設置する学校等の学生生徒等数の状況

（令和元年5月1日現在）

| フリガナ<br>学校名<br>（所在地） | 学部・学科等名 | 開設年度 | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員 | 現員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ｺｳﾁﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾓﾝｼｮｸﾀﾞｲｶﾞｸ<br>高知リハビリテーション専門職大学<br>（土佐市高岡町乙1139-3） | リハビリテーション学部 | Ｈ 31 | 150 | 132 | 150 | 132 |
| | リハビリテーション学科 | Ｈ 31 | 150 | 132 | 150 | 132 |
| | 理学療法学専攻 | Ｈ 31 | 70 | 67 | 70 | 67 |
| | 作業療法学専攻 | Ｈ 31 | 40 | 34 | 40 | 34 |
| | 言語聴覚学専攻 | Ｈ 31 | 40 | 31 | 40 | 31 |
| | 計 | | 150 | 132 | 150 | 132 |
| ｺｳﾁｶﾞｸｴﾝﾀﾝｷﾀﾞｲｶﾞｸ<br>高知学園短期大学<br>（高知市旭天神町292-26） | 生活科学学科 | Ｓ 42 | 80 | 46 | 160 | 112 |
| | 幼児保育学科 | Ｓ 44 | 80 | 76 | 160 | 155 |
| | 医療衛生学科 | Ｈ 18 | 80 | 75 | 240 | 225 |
| | 医療検査専攻 | Ｈ 18 | 40 | 38 | 120 | 132 |
| | 歯科衛生専攻 | Ｈ 18 | 40 | 37 | 120 | 93 |
| | 看護学科 | Ｈ 20 | 60 | 67 | 180 | 209 |
| | 高知学園短期大学計 | | 300 | 264 | 740 | 701 |
| | 専攻科 | | | | | |
| | 応用生命科学専攻 | Ｈ 13 | 10 | 12 | 10 | 12 |
| | 地域看護学専攻 | Ｈ 23 | 20 | 19 | 20 | 19 |
| ｺｳﾁｺｳﾄｳｶﾞｯｺｳ<br>高知高等学校<br>（高知市北端町100） | 全日制課程 | Ｓ 23 | 420 | 193 | 1,260 | 578 |
| ｺｳﾁﾁｭｳｶﾞｯｺｳ<br>高知中学校<br>（高知市北端町100） | | Ｓ 23 | 330 | 124 | 990 | 370 |
| ｺｳﾁｼｮｳｶﾞｯｺｳ<br>高知小学校<br>（高知市北端町100） | | Ｓ 32 | 80 | 45 | 480 | 299 |
| ｺｳﾁｶﾞｸｴﾝﾀﾝｷﾀﾞｲｶﾞｸﾌｿﾞｸｺｳﾁｮｳﾁｴﾝ<br>高知学園短期大学附属高知幼稚園<br>（高知市北端町100） | | Ｓ 27 | 40 | 10 | 120 | 102 |
| ｺｳﾁﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｶﾞｸｲﾝ<br>高知リハビリテーション学院<br>（土佐市高岡町乙1139-3） | 理学療法学科 | Ｓ 43 | － | － | 210 | 167 |
| | 作業療法学科 | Ｈ 5 | － | － | 120 | 113 |
| | 言語療法学科 | Ｈ 9 | － | － | 120 | 68 |
| | 計 | | － | － | 450 | 348 |
| ｺｳﾁｶﾞｸｴﾝﾀﾝｷﾀﾞｲｶﾞｸﾌｿﾞｸﾆﾝｶｶﾞｲﾎｲｸｼｮ<br>高知学園短期大学附属認可外保育所<br>（高知市北端町100） | | Ｈ 26 | 15 | 12 | 15 | 12 |
| 合計 | | | 1,365 | 811 | 4,235 | 2,573 |

## ［ ５ ］ 役員・評議員の概要

### （1） 歴 代 理 事 長

| 氏　　名 | 在　任　期　間 |
|---|---|
| 橋　田　早　苗 | 大正10年　12月　～ |
| 山　本　忠　秀 | ～　昭和11年　10月 |
| 中　島　和　三 | 昭和11年　10月　～　〃　18年　５月 |
| 川　島　正　件 | 〃　18年　６月　～　〃　23年　11月 |
| 坂　本　重　寿 | 〃　23年　12月　～　〃　38年　４月 |
| ㈹ 井　上　重　陽 | 〃　38年　５月　～　〃　40年　２月 |
| 藤　田　三　郎 | 〃　40年　３月　～　〃　46年　１月 |
| 川　島　源　司 | 〃　46年　１月　～　〃　51年　３月 |
| 藤　本　　孟 | 〃　51年　４月　～　〃　55年　７月 |
| 岡　林　濯　水 | 〃　55年　７月　～　〃　62年　４月 |
| 汲　田　精　一 | 〃　62年　４月　～　平成元年　５月 |
| 竹　内　明　義 | 平成元年　６月　～　〃　10年　８月 |
| 西　野　恭　正 | 〃　10年　８月　～　〃　16年　４月 |
| ㈹ 下　山　　晃 | 〃　１6年　４月　～　〃　16年　８月 |
| 成 田　十 次 郎 | 〃　16年　８月　～　〃　20年　８月 |
| 小 笠 原　俊 明 | 〃　20年　８月　～　〃　26年　８月 |
| 吉　良　正　人 | 〃　26年　８月　～　至現在 |

注㈹は、理事長代理

### （2） 歴 代 学 園 長

| 氏　　名 | 在　任　期　間 |
|---|---|
| 川　島　源　司 | 昭和37年　４月　～　昭和46年　３月 |
| 高　石　次　郎 | 〃　46年　４月　～　〃　49年　３月 |
| 山　崎　重　明 | 〃　49年　４月　～　〃　51年　３月 |

昭和51年４月　学園長の職制廃止

（３）役員・評議員の氏名等

① 役　　員　　（令和２年３月現在）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理事　定数　10人　任期　2年※<br>（※１号理事及び２号理事を除く）<br>実数 | 常　勤　5人<br>非常勤　5人<br>計　10人<br>うち外部理事　5人 | 監事　定数　2人　任期　2年<br>実数 | 常　勤　0人<br>非常勤　2人<br>計　2人<br>うち外部監事　2人 |

選任条項別定数実数

| 区分 | 定数 | 実数 |
|---|---|---|
| 号 | 人 | 人 |
| 1 | 2 | 2 |
| 2 | 1 | 1 |
| 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 |

（注）選任区分の各号は寄附行為第６条第１項の各号

| 理事・監事の区別 | 職名又は担当職務 | 代表権の範囲 | 氏名 | 常勤・非常勤の別 | 就任年月日（重任年月日） | 選任区分等 項又は号 | 選任区分等 選任区分 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 理事 | 理事長 | 法人の全ての業務 | 吉良正人 | 常勤 | H14.3.1<br>(H30.8.31) | 3号 | 評議員<br>（理事会選任） |
| 〃 | － | － | 小島一久 | 〃 | H26.4.1<br>(H29.4.1) | 1号 | 学校長の互選 |
| 〃 | － | － | 小嶋裕 | 〃 | H31.4.1 | 1号 | 〃 |
| 〃 | － | － | 東好男 | 〃 | H26.8.31<br>(H30.8.31) | 2号 | 学園本部長 |
| 〃 | － | － | 上岡義隆 | 非常勤 | H26.8.31<br>(H30.8.31) | 3号 | 評議員<br>（理事会選任） |
| 〃 | － | － | 森暁 | 常勤 | H25.4.1<br>(H31.4.1) | 3号 | 〃 |
| 〃 | － | － | 細木秀美 | 非常勤 | H20.8.31<br>(H30.8.31) | 4号 | 学識経験者<br>（理事会選任） |
| 〃 | － | － | 竹内康雄 | 〃 | H18.8.31<br>(H30.8.31) | 4号 | 〃 |
| 〃 | － | － | 田中正澄 | 〃 | H28.8.31<br>(H30.8.31) | 4号 | 〃 |
| 〃 | － | － | 前田好正 | 〃 | R元.11.15 | 4号 | 〃 |
| 監事 | 監事 | | 行田博文 | 非常勤 | H18.8.31<br>(H30.8.31) | － | － |
| 〃 | 〃 | | 髙瀬久志 | 〃 | H14.8.31<br>(H30.8.31) | － | － |

② 評 議 員

| | | |
|---|---|---|
| 定数 21 人<br>実数 21 人<br>任期 2 年 | （注）選任区分の各号は寄附行為第24条第１項の各号 | 選任条項別定数実数 |

| 区分 | 定数 | 実数 |
|---|---|---|
| 号 | 人 | 人 |
| 1 | 3 | 3 |
| 2 | 6 | 6 |
| 3 | 5 | 5 |
| 4 | 3 | 3 |
| 5 | 4 | 4 |

| 氏名 | 就任 | | 選任区分等 | |
|---|---|---|---|---|
| | 就任年月日 | 重任年月日 | 項又は号 | 選任区分 |
| 森 暁 | H25.5.31 | H30.8.31 | 1号 | 法人職員（理事会選任） |
| 山本 勝子 | H17.5.27 | H30.8.31 | 1号 | 〃 |
| 友村 憲朗 | H29.5.31 | H30.8.31 | 1号 | 〃 |
| 吉良 正人 | H14.3.1 | H30.8.31 | 2号 | 法人設置学校卒業者（理事会選任） |
| 秋山 保之 | H26.8.31 | H30.8.31 | 2号 | 〃 |
| 山地 好市 | H23.6.2 | H30.8.31 | 2号 | 〃 |
| 野々村 雅代 | H22.8.31 | H30.8.31 | 2号 | 〃 |
| 西森 美惠 | H28.8.31 | H30.8.31 | 2号 | 〃 |
| 北川 眞智子 | H26.8.31 | H30.8.31 | 2号 | 〃 |
| 細木 秀美 | H20.8.31 | H30.8.31 | 3号 | 理事の互選 |
| 前田 好正 | R元.11.15 | — | 3号 | 〃 |
| 小島 一久 | H26.5.29 | H30.8.31 | 3号 | 〃 |
| 小嶋 裕 | R元.5.29 | — | 3号 | 〃 |
| 東 好男 | H26.8.31 | H30.8.31 | 3号 | 〃 |
| 渡邊 基文 | H28.8.31 | H30.8.31 | 4号 | 在学生の父母若しくは保護者（理事会選任） |
| 片山 憲 | R2.1.30 | — | 4号 | 〃 |
| 細川 洋伸 | H26.5.29 | H30.8.31 | 4号 | 〃 |
| 上岡 義隆 | H20.8.31 | H30.8.31 | 5号 | 学識経験者（理事会選任） |
| 竹内 康雄 | H18.8.31 | H30.8.31 | 5号 | 〃 |
| 田中 正澄 | H28.8.31 | H30.8.31 | 5号 | 〃 |
| 竹村 彰夫 | H18.8.31 | H30.8.31 | 5号 | 〃 |

（４）理事会・評議員会の開催状況

・理事会

第１回　　令和 元 年　5 月 29 日
第２回　　令和 元 年　7 月 26 日
第３回　　令和 元 年 11 月 15 日
第４回　　令和　2 年　1 月 30 日
第５回　　令和　2 年　3 月 24 日

・評議員会

第１回　　令和 元 年　5 月 29 日
第２回　　令和 元 年　7 月 26 日
第３回　　令和 元 年 11 月 15 日
第４回　　令和　2 年　1 月 30 日
第５回　　令和　2 年　3 月 24 日

## ［６］教職員の概要

令和元年５月１日現在

| 学校名 | 教員 | | 職員 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 専任 | 兼任 | 専任 | 兼任 | |
| 学園本部 | 0 | 0 | 1 | 3 | 4 |
| 高知リハビリテーション専門職大学 | 30 | 25 | 13 | 10 | 78 |
| 高知学園短期大学 | 58 | 120 | 17 | 10 | 205 |
| 高知高等学校 | 40 | 9 | 3 | 12 | 64 |
| 高知中学校 | 28 | 7 | 2 | 1 | 38 |
| 高知小学校 | 17 | 9 | 1 | 5 | 32 |
| 高知学園短期大学附属高知幼稚園 | 5 | 7 | 0 | 4 | 16 |
| 高知リハビリテーション学院 | 9 | 64 | 2 | 0 | 75 |
| 高知学園短期大学附属認可外保育所 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 合計 | 187 | 242 | 39 | 45 | 513 |

## Ⅱ　設置学校の事業報告

### ［１］高知リハビリテーション専門職大学

1　重点目標と取り組み

約 50 年間の高知リハビリテーション学院（以下「学院」という。）におけるリハビリテーション関連の「療法士」教育を基盤に、新たな展開として「専門職大学制度」での新体制の教育が開始された。

高知リハビリテーション専門職大学（以下「専門職大学」という。）と学院との教育上の相違点を明確にすると共に、学校法人高知学園の基本的「建学理念」を尊重し、新大学として目指すべき専門職大学独自の概念（理念）の構築に努めてきた。

すなわち、リハビリテーションの専門職は、「Allied Health Professions」（健康に関する専門職）、「Rehabilitation for well-being in life」（リハビリテーションは、人間がより健やかに、幸福に生きていくための支援）であり、「To believe in rehabilitation is to believe in humanity」（H.A.Rusk、リハビリテーションを信じるということは、人間らしさを信じること）という概念を新たに挙げた。

このような概念（理念）のもと、保健・医療・福祉の分野に対する社会のニーズ拡大を見据えて、理論に裏打ちされた実践的な知識と技術を養い、人間の生命（いのち）・生活（くらし）、人生（生き方）に関連する専門職としての資質に欠くことのできない「人間力と倫理観」の要請に努めた。

専門職大学の基本的な取り組みについては、上記の概念（理念）に基づいて運営方針を示すとともに、重点目標を明確にしたうえで今後の学年進行に併せ、年度ごとの継続的な運営を図り完成年度を迎えたい。

〔主要な項目と令和元年度の取り組み〕

（１）先進・進取の伝統の継承と発展

高知リハビリテーション学院の伝統を継承し、発展させていくため、資格に直結する実務を学ぶだけでなく、大学としての知識・理論とその応用を学ぶことに加え、関連する他分野を学ぶことで、豊かな創造力と高度な実践力を兼ね備えたプロフェッショナルとしての活躍が期待される職業人の育成に努めた。また、地域リハビリテーションや在宅ケアなど、国の社会保障政策を見据えた教育の推進に努めた。

（２）有為な人材、信頼される療法士の育成

現場に即応できる有為で信頼される人材を育成していくため、様々な職種のキャリアップのための基礎となる基礎科目、療法士に必要な知識や技能等専門分野全般に必要な能力を育成する職業専門科目に加え、専攻する分野の知識・技術を他分野に展開するとともに応用力や創造力を培う展開科目等の科目群のもと、個別指導を深化させ、スタディ（学習）・ソーシャル（社会性）双方のスキル（技能）をアップさせる指導を行った。

国家試験対策については、１年次から全国レベルの演習や評価手法を導入するなど、計画的な指導に取り組んだ。

（３）先駆的な教育・研究環境の整備

医科学の進展に即し、常に医療現場のニーズに応えていくことができるよう教育研究機器と教育の質及び内容の点検・再構築に重点的に取り組み、平成 30 年度に引き続き計画的に、教育に必要となる指定された超音波治療器や体脂肪測定器具等の教育システムとして必要な機械、器具等の購入を行い、教育、研究環境の整備を図った。

なお、会議室、大・中教室、研究室、実習施設などを適正に配備するための「大学施設の改修・改善」、校舎塗装、校門配置、浸水対策、植樹などの「外部環境の美化」、「スポーツ関連施設の整備」、「体育館、食堂機能の改善」等のキャンパス全体の環境整備や学生の福利厚生につながる施設、設備の機能の改善等の取組みは進んでおらず、こうした取組みを進めるための継続的な中期（3～4 年）計画作成の必要性が生じている。

（４）地域とともに歩む大学づくり

専門職大学の大きな特性である「地域実践」、「地域連携」、「地域貢献」として、

① 土佐市との新たな連携協定の締結
② 土佐市の各種委員会への委員派遣協力
③ 地域子育て環境などの向上を目指し、NPO 法人「土佐の風」と連携した児童支援事業
④ 高知県下の市町村の教育・保健・福祉にかかわる各種事業への講師派遣。

等の地域活動に取り組んだ。今後とも、地域活動については、近隣市町村へ拡大するとともに、さらに高知県下への活動協力に努める。

２．教育研究計画

（１）学生のスキルアップ

専門職大学における生活・学習の「初期オリエンテーション」として新入生に「基礎ゼミ」の履修などにより、基礎学力の向上を図るとともに、専門知識、技能の習得に必要な基礎教科の重点指導に努め、スタディースキル（学習技能）をアップさせていく取り組みを進めた。

また、療法士に大切なコミュニケーション能力や礼節、至誠心といったソーシャルスキル（対人的技能）をアップさせていく教育指導や実践研修を推進した。

（２）教員の研鑽、研究活動の促進

教員自らが日々の授業運営の改善（向上）に向けた取り組みを進めるために教授法などの専門研修（主に SPOD）や教育研究大会へ参加した。また、臨床実習指導者連絡協議会においては、各実習施設における教育的な治療・支援の現場で直面するケースノートに関する議題や週 45 時間となった実習形態などの具体的な課題を討論した。

学術面では、著書 3 冊、筆頭論文 14 本（共同 28 本）、学会発表 9 件（共同 22 件）の実績があったが、まだ満足するものではない。さらに「競争的研究資金」（特に科学研究費）獲得に応募するため、本学では「APRIN e ラーニングプログラム」（一般社団法人　公正研究推進協会）の履修を推奨し、学内のほとんどの教職員が「履修終了」しており、今後、積極的な応募に取り組む。

３．学生募集に関する取り組み

（１）専願による学生の確保（専門職大学）

令和元年度については、県内外への高校訪問や進路ガイダンスへの参加、学校説明会の開催等を中心に学生募集に努めた。また愛媛県専任の学生募集担当者を加えるなど、愛媛県内の募集強化を図った。愛媛県からの入学者が増加したこともあり、県外からの入学者が前年度に比べ10名増加した。

一方で、指定校推薦（▲11名）、公募制推薦（▲5名）、高知高校フェローシップ（▲8名）など、推薦入試を活用しての受験生が減少したことにより、前年度に比べ専願での入学生が20名減となった。（社会人除く）

全体では、AO方式入試と一般入試については増加しており、ある一定の効果を得ることは出来たが、推薦入試での受験生減の影響が響き、119名（▲13名）の学生の入学となった。

（２）学校訪問や進路相談会などの開催状況

県内高校については、学校訪問専門の職員を配置し、原則毎月１回程度の訪問を行った。

また、県外高校については、愛媛県に専任の学生募集担当を配置し、定期的な訪問を行うことで強化を図り、香川県・徳島県については、オープンキャンパスや入試前に重点的に訪問し、進路担当教職員との面談、情報提供に努めるとともに、年度途中にも臨時的に学生募集担当を増やし、新規開拓を含め岡山県・広島県福山市内の高校訪問を行った。

進路相談会については、高知県内を中心に四国各地で開催し、高校主催のものを含めると55回（413名受付）参加した。県内高校の進路指導教員を対象に実施した本学主催の説明会には27校（31名）が参加、幡多地区で開催した説明会にも5校（6名）の参加を得た。

愛媛県・香川県・徳島県でも同様に説明会を開催し、22校（22名）が参加した。

オープンキャンパスは、6月1回、7月1回、8月2回、10月1回の計5回開催し、延べ553名（生徒338名・保護者他215名）が来校、本学を受験した多くの生徒が来場した。

また、11月には一般入試対策を中心とした入試説明会を実施し、生徒9名、保護者他9名の参加があった。

なお、令和3年度入学生に対する令和2年3月に予定していたオープンキャンパスについては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響があり、中止となった。

（３）広報活動

高校生の利用頻度の高いＳＮＳ（LINE・Instagram等）を用いて、入試情報やオープンキャンパス開催情報、学校の取り組みなどを積極的に発信した。

また、生徒や進路担当現場での利用度が高い進学情報誌を活用したＰＲ、オープンキャンパスやＴＶや新聞での広告等、メディアを活用した広報活動を推進するとともに生徒等からのアクセスが多いホームページについては、常に新しい情報を盛り込み、さらに利用価値の高いものとしての利用を図った。

４　教職員の状況

本務教員30名、兼務教員27名、本務職員14名、兼務職員10名により業務を実施。

参考

表１：入試選考

| 区　分 | 定　員 | 令和２年４月入学者 | | 平成 31 年４月入学者 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 |
| 理学療法学専攻 | 70 | 69 | 63 | 75 | 67 |
| 作業療法学専攻 | 40 | 31 | 27 | 44 | 34 |
| 言語聴覚学専攻 | 40 | 31 | 29 | 43 | 31 |
| 合　計 | 150 | 131 | 119 | 152 | 132 |

学生数（４月）：平成 27 年度　601 人：平成 28 年度　589 人：平成 29 年度　554 人
：平成 30 年度　516 人：平成 31 年度　480 人：令和　２年度　448 人

## ［２］高知学園短期大学

１　事業の概要

「世界の鐘」の呼びかける平和と友愛の精神を柱とし、自由と規律を尊び、真理を深め、創造性と情操を培い、広い教養と健全な社会性を身につけた短期大学士の学位を有する専門的職業人を育成するという本学の基本方針のもと、本年度は、16 項目の重点目標を定め、その達成のため取り組んだ。その主なものは、

(1)　入学者の確保に向けた効果的な募集活動
(2)　生涯学び続け、主体的に考える力を持ち未来を切り開く人材の育成
(3)　専門的職業人育成のためのキャリア教育の充実
(4)　入口から出口に至る教育の充実（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの徹底、ＰＤＣＡサイクルの確立）
(5)　各学科の目指す資格等の確実な取得と全国的にも質の高い短期大学を目指す
(6)　教職員の資質指導力の向上及び、教職員の協働体制の確立
(7)　地域社会に貢献する人材づくり
(8)　入学者のオリエンテーションの充実
(9)　FD･SD の活性化
(10) 外部資金の獲得
(11) 高知学園大学の設置認可及び大学・短大併置の体制充実
(12) 地域に貢献する大学として諸施策の提案
(13) 新設大学８号館の建築及び既設校舎の改修等施設の充実
(14) 震災対策等危機管理体制の充実
(15) 第三者評価（短期大学基準協会）の受任体制の充実
(16) 県内の高等教育機関の連携強化

2　事業の実績

(1)　入学者の確保に向けた取組みでは、学生支援課と入学試験募集委員会との有機的な連携のもと教職員の協働体制により事業を展開した。年間行事計画により、積極的な広報活動を行っている。年間 4 回開催のオープンキャンパスでは年度毎にテーマを掲げ、それに沿って各学科・専攻で企画検討し内容の充実を図る工夫、時期を見極めた効果的な学校訪問、教職員が担当する高校での講演活動や説明会、高校の行事への積極的な参加等を通じて本学の理解啓発に努めた。

入学者は、短期大学本科（幼児保育学科・歯科衛生学科・看護学科）の入学定員 180 名に対し 186 名の入学者、専攻科（応用生命科学専攻・地域看護学専攻）の入学定員 30 名に対し 33 名となり、短期大学全体で定員を 9 名上回ることとなった。

(2)　各学科、各教科の授業にアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生が主体的に考える力の醸成に努めている。

(3)　本学学生のキャリア形成は、必要不可欠であることから、平成 28 年度から全学科でキャリア教育に取り組んでいる。本学で作製したキャリアノートの活用、キャリア形成セミナーの開催や就活講座、学生のマナー指導等に積極的に取組み充実を図っている。キャリア形成の授業では、「ニュース検定」の受検をさせるなど、社会的視野を広げるための工夫も行っている。また、各学科が中心となって、卒業生を講師に招いての「ようこそ先輩」を開催・拡充を図り学生の将来の生き方や職に対する意識を高めるなどの取り組みも学生のキャリア形成に効果的であった。

(4)　大学教育の入口から出口に至る教育の充実を図るため、本学の方針としてディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）を学内及び学外に明示し、その方針に沿った教育の実践に努めた。その結果を検証するためのＰＤＣＡサイクルの取り組みを開始している。

(5)　各学科における資格取得のうち国家試験については授業の充実と補充指導を行い各学科（医療衛生学科医療検査専攻及び歯科衛生専攻、看護学科、専攻科地域看護学専攻）とも 100%を目指し取り組んだ。結果は 100%達成は、1 国家試験のみ(保健師)となり、目標達成のためには、更なる努力と対策が必要となった。（別表参照）

(6)　教職員の指導力向上については、教職員間で行う授業参観や、ＦＤ・ＳＤ活動、学生の授業評価などに基づいて指導力の向上に努めている。また、学内の委員会組織等を通じて教職員の協働体制の確立に努めている。

(7)　高知県の三大学、学園短大、高知高専の高等教育機関と産業界で構成する産学官民連携センターの活動に積極的に参画するとともに地域貢献に関する事業の取り組みを進めてきた。これまで幼稚園・小学校・中学校・高等学校で実施してきた健康教育も継続拡充している。また昨年に引き続いて近隣の高齢者を対象として、健康に対する意識の醸成や地域の方々の本学に対する理解を得ることを目的として各学科・専攻の特色を生かした「いきいき健康フェア」を開催して好評を博した。今後更なる地域貢献が期待されている。

(8)　入学者に対して高等学校と大学との段差を解消するため、オリエンテーションで大学生活の心構え、学業に臨む姿勢や態度等について丁寧に説明し、円滑に大学生活に入れるよう指導を行った。

(9)　「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」の活用による教職員の資質・指導力の向上に関しては、学内の研究授業の実施、授業評価のためのアンケート調査や教職員合同での研修会の受講などを行った。また、本年度も FD･SD 活動研究発表会を実施するとともに、年間の活動をまとめた「高知学園短期大学 FD･SD 活動報告書」を作成するなど、より積極的な取り組みが実施できている。

(10) 各学科教員が、外部資金獲得に向けての研究活動に意欲的に取り組み、外部資金の獲得に向けて努力している。

(11) 平成 30 年 10 月に高知学園大学設置申請書を提出し、大学設置審議会及び学校法人審査会の審査を受け、令和元年 11 月 11 日に文部科学大臣より設置が認可され、本年 4 月 1 日に開学の運びとなった。また同時に、高知学園短期大学として 3 学科（幼児保育学科・歯科衛生学科・看護学科）1 専攻科（地域看護学専攻）の併置体制となった。

(12) 地域に貢献する大学として教職員が、高知県・高知市の諸施策を検討する委員会の委員に就任するなど積極的に地域貢献を意識した取り組みを進めている。

(13) 大学の新校舎となる 8 号館は、学生の精神的な安定に好影響を及ぼすとされる木造 3 階建てを採用した。主要構造にＣＬＴを用いて、国内最大寸法 12 メートルの壁柱を採用した三層階通し構造という、大学の校舎としては日本初の極めて珍しい工法の建築物となってる。この校舎は、令和元年度サスティナブル建築物等先導事業としての認可を受けた。また大学設置のために、新たにゼミ室・研究室の増設や、調理実習室の改修などを行い、科学技術の進歩に対応できる設備の充実を図りより高度な専門的職業人の育成のために必要な学習環境を整えた。

(14) 震災対策等は、災害対策委員会を中心に学生・教職員の防災意識の強化を図るための防災講演会、防災訓練を実施してきた。本年度より各学年・各学科の学生による「災害対策委員」を募り、学内の防災設備の点検や、震災訓練の実施の運営スタッフとしての活動も開始した。防災機器備品等の整備も計画的に行い、学生・教職員が必携としている防災マニュアルについても毎年更新し充実を図っている。

(15) 一般財団法人大学・短期大学基準協会（令和元年 4 月 1 日名称変更）認証評価については規定の 7 年ごとに審査を受けてきた。今回が、3 回目となる認証評価結果は、基準Ⅰ建学の精神と教育の効果基準Ⅱ教育課程と学生支援基準Ⅲ教育資源と財的資源基準Ⅳリーダーシップとガバナンスの 4 基準すべて合（適格）認定された。

(16) 県内高等教育機関の学長・校長で「高知學長会議」を組織している。本年度は、本学が事務局当番校を勤め、本学において 2 回開催し高等教育機関としての教育や地域に貢献する人材づくり、各校の所有する施設設備の共同利用、災害時の連携などの意見交換会を行った。今後も更に連携し充実した教育環境の確保に努める。

3　募集活動

(1)　入学者選考

9 月の特別推薦選考から 3 月の試験選考 B までの 6 種類の選考と社会人選考 3 回、専攻科 2 回の選考および特別選考 A・B を実施した。

(2)　オープンキャンパス

令和元年度は 6 月から 9 月にかけて 4 回実施した。オープンキャンパスが受験者増に直接繋がることから、積極的に広報活動を展開するとともに保護者を対象にした保護者のための講

座を設ける等、内容の充実に更なる努力を行い参加者の増加に努めた。参加生徒 960 名(79 名減)、参加保護者 414 名(46 名増)、全体では 1,374 名(33 名減)の参加を得た。

(3)　高校訪問等

本学の学生募集入試委員会の教員と本学の学生支援課担当職員の協働体制により効果的な高校訪問、高校主催の説明会、高校の学校行事や講演等積極的に参加し、高校と本学の信頼関係を構築しながら募集活動を展開した。また本学主催の高校教員を対象とした入試説明会を本学で実施し、多くの教員の参加を得た。本年度も県外で実施する進学説明会に参加し、更に高校へも積極的に訪問を行った。

(4)　高校の進路指導に関する授業等

各高校の主催する進路指導講座やキャリア形成講演会に参加し、直接高校生に授業を行う模擬授業の機会の増加や PTA 活動の一環として保護者を対象に行われる説明会にも講師として招聘される頻度も増加し、生徒・保護者両面の対策を実施した。

(5)　高知高校との連携

フェローシップによる対策を実施するために高校との連携を密にし、高知高校の 2 年生は授業見学とオープンキャンパスへの参加、3 年生は授業参加及びオープンキャンパスの参加等を行い、本学に対する理解を深めるとともに進学意欲を高めることに努めた。

(6)　広報計画実績

本県に対する卒業生の貢献度や就職率の高さを強調し高校生の目線でのアピールを目的として「私は、私のミライに種を蒔く。」のキャッチコピーを加えて本学の特色を強調してきた。県内では新聞、テレビ、ラジオ等の広報活動を行った。また、県外に向けての広報活動を積極的に実施し、予算内でより効果的に展開できた。

(7)　募集実績

令和 2 年度募集実績（高知学園大学）

| 学部・学科 | 出願者 | 合格者 | 入学者 |
|---|---|---|---|
| 健康科学部　管理栄養学科 | 77 | 73 | 54 |
| 健康科学部　臨床検査学科 | 78 | 69 | 59 |
| 合　計 | 155 | 142 | 113 |

令和 2 年度募集実績（高知学園短期大学）

| 学科・専攻 | 出願者 | 合格者 | 入学者 |
|---|---|---|---|
| 幼児保育学科 | 92 | 86 | 80 |
| 歯科衛生学科 | 39 | 39 | 39 |
| 看護学科 | 120 | 80 | 67 |
| 専攻科応用生命科学専攻 | 18 | 13 | 13 |
| 専攻科地域看護学専攻 | 26 | 20 | 20 |
| 合　計 | 295 | 238 | 219 |

4　進路指導実績

(1)　就職指導

各学科の就職委員と学生支援課、キャリアセンターの緊密な連携による学生指導やキャリア

形成セミナー等の講演活動による意識の向上、就職資料の充実、IT 関連の整備等を通じて、学生たちの職業意識の高揚を図り、学生が積極的に就職活動に取組む姿勢が向上した。

また、求人開拓も行うなど就職希望者全員の就職に向けての努力を重ねた。その結果、11 年連続しての 100%の就職率となった。

(2) 進学指導

本学の専攻科への進学者 31 名、他大学への進学者は 3 名。

(3) 令和元年度卒業生の進路状況

| 学科・卒業者数 | | 職種 | 業種 | | 就職者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生活科学学科 | | 栄養士 | 病院等 | | 9 | 進学 : 2<br>その他 : 1<br>家庭 : 1 |
| | | | 学校給食等 | | 2 | |
| | | | 集団給食等 | | 27 | |
| | | 教員 | 栄養教諭 | | 4 | |
| | | 事務職員等 | 一般企業等 | | 2 | |
| | | | 医療事務 | | 6 | |
| | | 上記以外 | | | 7 | |
| 卒業者数 | 61 | 就職希望者数 | 57 | 就職決定者数 | 57 | 就職率 100% |
| 幼児保育学科 | | 保育士 | 保育園等 | | 56 | 進学 : 0<br>その他 : 2<br>家庭 : 1 |
| | | 教員 | 幼稚園 | | 14 | |
| | | 事務職員等 | 一般企業等 | | 4 | |
| | | 上記以外 | | | 1 | |
| 卒業者数 | 78 | 就職希望者数 | 75 | 就職決定者数 | 75 | 就職率 100% |
| 医療衛生学科<br>医療検査専攻 | | 臨床検査技師 | 病院等 | | 6 | 進学 : 14<br>その他 : 2<br>家庭 : 8 |
| | | | 検査センター | | 2 | |
| | | 上記以外 | | | 4 | |
| 卒業者数 | 36 | 就職希望者数 | 12 | 就職決定者数 | 12 | 就職率 100% |
| 医療衛生学科<br>歯科衛生専攻 | | 歯科衛生士 | 歯科医院 | | 24 | 進学 : 0<br>その他 : 0<br>家庭 : 2 |
| | | | 病院 | | 0 | |
| | | 上記以外 | | | 2 | |
| 卒業者数 | 28 | 就職希望者数 | 26 | 就職決定者数 | 26 | 就職率 100% |
| 看護学科 | | 看護師 | 病院 | | 46 | 進学 : 18<br>その他 : 0<br>家庭 : 4 |
| | | 教員 | 学校等 | | 0 | |
| | | 上記以外 | | | 0 | |
| 卒業者数 | 68 | 就職希望者数 | 46 | 就職決定者数 | 46 | 就職率 100% |
| 合計<br>卒業者数 | 271 | 就職希望者数 | 216 | 就職決定者数 | 216 | 就職率 100% |
| 専攻科<br>応用生命科学専攻 | | 臨床検査技師 | 病院等 | | 9 | 進学 : 0<br>家庭 : 1 |
| | | | 検査センター | | 2 | |
| 修了者数 | 12 | 就職希望者数 | 11 | 就職決定者数 | 11 | 就職率 100% |
| 専攻科<br>地域看護学専攻 | | 看護師 | 病院 | | 12 | 進学 : 0<br>その他 : 0<br>家庭 : 2 |
| | | | 施設等 | | 0 | |
| | | 保健師 | | | 2 | |
| | | 教員 | 学校 | | 3 | |
| 修了者数 | 19 | 就職希望者 | 17 | 就職決定者 | 17 | 就職率 100% |
| 総 計 | | | | | | 進学 : 34<br>その他 : 5<br>家庭 : 19 |
| 卒業(修了)者<br>合計数 | 302 | 就職希望者数 | 244 | 就職決定者数 | 244 | 就職率 100% |

＊備考のその他とは、専門学校・各種学校・職業訓練入学。科目等履修生・卒後研修生。

5　人事計画実績

(1)　令和元年度の専任教員は、58 名となった。
　　兼任教員は、124 名となった。

(2)　専任職員は、 17 名となった。

6　教育研究実績

(1)　生活科学学科

1)　教育実績

①　食・栄養・健康に関わる理論と技術を多様な講義や実習、演習を通じて、実践力を備えた栄養士を養成するために、各教員は自己研鑽に努め、講義・実習・実験等の工夫により学生の専門知識・技術の修得に努めた。

②　調理学実習では、実技試験を実施するが、その内容については合格者登校日に課題として説明をおこない、入学前から個々の調理技術向上を図った。また、授業以外でも別途補講によりスキルアップに努めた。臨床栄養学実習では、給食管理実習室を活用して病院食における治療食の大量調理を体験する授業とし、実践力を身に付けるために病院食の献立作成における技術の習得を強化した。

③　学外実習にむけての実践力、応用力を身に付ける目的で、７月６日に「栄養士・管理栄養士倫理綱領」朗誦と旭光徽章の授与による「飛翔式」を執り行い、61 名の学生が実習に臨む姿勢と意識を高めた。

④　キャリア形成、就職活動の一環として、生活科学学科２年生を対象に第３回就職合同説明会を開催した（5 月 20 日）。参加企業は 12 社（委託９、直営３）で 22 名の参加があり、栄養士採用のニーズが高いことがわかり、学生は直接企業から業務内容等を聞くことでより良い就職活動の場となった。

⑤　栄養士実力認定試験(主催:一般社団法人全国栄養士養成施設協会)を2年生61名が受験した(令和元年 12 月 8 日)。全員が認定証 A を取得するべく、10 月より各教科の補講や模擬試験を行った。模擬試験で基準点に達していない学生には更に補講を実施し、知識習得を行った。その結果、昨年度よりも認定証 A 取得学生割合が増加し、短期大学における全国平均点を上回る結果が得られた。また認定証 C を取得した 1 名の学生に対しても、更なる補講と本試験の再試験を実施することにより、栄養士としての知識習得・定着を行った。

⑥　高知県公立学校教員採用候補者選考審査（栄養教諭）を受験する学生への受験対策として、6 月の試験までに 2 月から集中講義として、栄養教諭採用審査対策講座を実施した。合格には至らなかったが、学生のやる気や学ぶ意欲の向上につながり、４名が臨時教員として着任することとなった。

⑦　在学生および卒業生を対象に国家試験準備講座を開催し、それぞれの専門科目担当の教員により管理栄養士受験対策を行った。

⑧　イキイキ健康フェア（11 月 30 日）に、生活科学学科では、高齢期の健康についてフードモデルを使って昼食を再現してもらい、食育 SAT による栄養相談を実施した。また、土佐茶とお菓子の提供も併せて実施した。学生 5 名、教員 8 名が参加した。

⑨　2 年生が主体となって 1 年生を歓迎する HLS Welcome Party を開催した（4 月 23 日）。授業や大学生活について 1 年生が 2 年生に相談でき、2 年生からはアドバイスができやすいなど学生間のきっかけづくりの場として効果的であった。

⑩　高知県産業振興センター主催の第 8 回ものづくり総合技術展が 11 月 7 日～9 日に高知ぢばさんセンターで開催され、本学科から学生が主体となって教員と「ものづくり教室」に参加した。未就学児から小学校低学年を対象に、箸置き・バランスランチョンマット作りの体験コーナーを企画し実施した。子供から成人まで 120 名以上の参加者があり、ものづくりを通して「食」を考える体験の場となり、学生も栄養の専門職として認識を高める良い機会となった。

⑪　平成 30 年度に引き続き、行政と民間企業の有志による「土佐茶プロジェクト」に本学科の学生が土佐茶ガールズとして参加し、土佐の豊穣祭や新茶まつりなどで土佐茶の普及活動を行った。

⑫　公益社団法人日本栄養士会が「栄養の日・栄養週間 2019」の事業の一環として、管理栄養士・栄養士の職能認知・普及を目的に「栄養ワンダー2019」を 7 月 1 日～8 月 31 日まで行っている。本学科では、給食実務論実習における大量調理販売実習の期間（7 月 12 日、17 日）の 2 日間実施した。日本栄養士会からの協賛食材（キウイフルーツ、ヨーグルト）を用いて販売献立に取り入れ、学生考案デザートの提供及びリーフレット等の配布、パワーポイントを使用した 10 分程度の「栄養の日・栄養週間 2019」に関するプレゼンテーションを（各日 2 回）を学生・教職員（延べ 200 人）を対象に実施した。

2)　研究実績

令和元年度は、著書（3）、論文（1 編）、学会発表（11 編）、その他講演など（16 編）を行い、それぞれ教員の質の向上に努める研究活動を行った。

(2)　幼児保育学科

1)　教育実績

①　本学科が定めた教育課程編成・実施の方針に沿い、特に幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程のカリキュラム改正に伴う教育効果の向上と、質的向上に向けた授業改善に取り組んだことにより、一定の学習成果を収めることができた。

②　本学科が定めた学位授与の方針に基づき、卒業者全員が幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得することに努めたが、令和元年度卒業生 78 名中 75 名は両方、1 名は幼稚園教諭免許状のみ、1 名は保育士資格のみ、2 名はいずれの資格も取得しないという結果となった。

③　本学科が定めた入学者受け入れの方針に基づき、入学直後から学生の学習成果獲得が円滑に実現できるよう、入学生の学業に対する興味・関心及び動機づけを高める教育力・実践力の改善をそれぞれの教員が連携して行い、学生の適切な学習時間の確保と、共同体制による指導で一定のレベルを保つことができた。

④　異学年学習交流会を通して、上級生と下級生との相互交流により親睦を深め、学習が促進された。全体会での上級生による実習先での実践発表や班別でのプレゼンテーショ

ンを通して、下級生は実習に臨む姿勢や心構えなどについて認識が深まった。併せて、上級生は、実習に対する自覚の高まりや実習へ取り組む姿勢などに成果が見られた。

⑤　中･四国保育学生研究大会への関わりを具体化させるため､プロジェクトを立ち上げ、授業でどのような取り組みを進めていくか等について検討し、方向付けができた。

⑥　教員免許状授与式の開催は､コロナウィルス感染拡大防止措置により実施できなかったため、教育職としての学生のより深い自覚と認識を高める機会を逃すことになった。

2)　研究実績

①　それぞれの教員は、研究倫理の理解を深めるとともに、適切な研究倫理に基づいて著作・研究論文、学会発表、作品発表等を積極的に行い、各分野の専門性を高め、その成果を教育に還元しようと努めた。その結果、学会誌発表 1 件、研究紀要投稿 3 件、テキスト執筆 1 件、講演 3 件となった。紀要の 2 件については、学科教員の共同研究によるものである。また、共同研究で取り組んでいる「幼児保育学科における異学年相互交流学習会」及び「幼児保育学科における学科行事」の分析考察については、本学の FD・SD 活動においても発表した。

SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワークフォーラム 2019）においては、ポスター発表を 1 件行った。

②　養成課程から就職後の適応感を高める指導体制の確立についての研究を深めるため、共同研究で「幼児保育学科における学習成果と卒業後の取り組み状況との関係」の分析考察を行い、本学の FD・SD 活動において発表した。

③　生涯学習講座によるアンケートの分析など､共同研究としての論文や報告についての検討を行い、意識の高揚を図った。

(3)　医療衛生学科

(3－1)　医療検査専攻

1)　教育実績

①　学内教育において実践力をもった臨床検査技師を育成するために各教員が教材の開発と教育手法の工夫に努めた。また、臨床施設の協力のもと病院見学実習（1 年次)、夏期体験実習（2 年次)、臨地実習（3 年次必修）を実施した。さらに、高知県臨床検査技師会主催の各種研修会への参加を推奨した。技師会と連携した学生支援活動（2 年次）を 3 月に 2 回予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。

②　臨床検査技師国家試験については、専攻長と 3 年担任を中心とする専攻内国家試験対策会議を定期的に開き、模擬試験の結果を見ながら、各教科教員による国家試験対策とチーム指導・個別指導・成績不振者対象補習授業を行うなどの努力をして 100%の合格を目指して努力してきたが､令和元年度は､別表のとおり大変に厳しい結果となった。次年度に向けて検証をし、改善を図るとともに、不合格の学生に対する支援も行っていく。また、在学中に取得できる各種資格についても受験を勧め、その対策のための補習や模擬試験等を実施し、各種資格に向けての支援も行っている。

③　臨床検査技師の専門化・高度化への対応として学生の進学を支援した結果、専攻科応用生命科学専攻に 13 名が進学し、大学編入者が 1 名（徳島大学医学部保健学科）であった。

④　学生の就職活動推進のため、3 年生対象に、病院、健康管理センター、検査関連企業等による就職セミナーを企画（8 月）し、その後も就職斡旋に努め、希望者全員の就職が決定した。

⑤　学生のモチベーションを高めるために、医療検査専攻の全学生が参加するキャリア形成事業を開催した。宣誓式（4 月）、臨地実習報告会（ 9 月）、を実施した。また応用生命科学専攻の前期修了研究発表会にも全学生が参加した。さらに、第 52 回中国四国医学検査学会（松江市）において開催された学生フォーラム（11 月）に参加するなど学外行事にも活動を広げた。

⑥　学習成果を高めるために、教員が FD 活動に積極的に参加し、特に発表形式のアクティブラーニング、ルーブリック評価の導入、独自のテキスト作成などを授業に取り入れ改善に努めた。また、第 3 回高知学園短期大学 FD・SD 活動研究発表会（8 月）で「実習レポートにおけるルーブリック評価の有用性」について本専攻の取組を発表した。

⑦　学園祭における健康食品の適切な利用の啓蒙や骨髄移植推進事業、また本学主催のいきいき健康フェアでの対外的な健康増進活動、リレー・フォー・ライフ高知、歯っぴいスマイルフェア、子宮頸がん予防・啓発キャンペーン、自治体病院の健康フェアなどの学外活動に参加し、健康・医療分野で学生と共に社会貢献した。

⑧　6 回目となる体験実習「臨床検査をのぞいてみよう！」を企画し（3 月）、高校生 46 名の参加申込みがあったが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施延期となった。

2)　研究実績

①　医療検査専攻教員の研究業績は、延べ著書 2 編、論文 1 編、研究紀要 1 編、学会発表 3 題、その他 6 件であった。

②　外部資金獲得については日本学術振興会科学研究費助成事業へ 2 名が応募したが、採択には至らなかった。1 名は、前年度採択の科学研究費（若手研究）を継続中である。

(3－2)　歯科衛生専攻

1)　教育実績

①　1 年生の段階から主体的な学びとなるよう 1 年生から 3 年生の縦割りのグループを作り、「健康教育」の授業である歯みがき指導実習に参加した。また、この授業を通して、幼児・児童・生徒等への年齢層にあった対応等、学習効果がみられた。指導施設数および対象人数は幼稚園・保育園（19 園 492 名）小学校（33 校 1,938 名）中学校（8 校 885 名）特別支援学校（1 校 62 名）であった。また、歯と口の健康週間行事では、高知市・高知市歯科医師会主催の「歯っぴいスマイルフェア 2019」に 3 年生は「手形コーナー」2 年生は「ステージイベント」として各班で作成した媒体を用いて歯みがき習慣の啓発事業を展開した。

②　医療人としての倫理観や人間性そして専門的知識の指導の充実については、1 年次には授業を通して職域の異なった先輩歯科衛生士の話を聴講し、2 年次では継承式の目的を踏まえて実習に臨み、3 年次には臨床・臨地実習を通して幅広い知識を吸収することに繋がった。

③　歯科臨床実習においては、事前に高知県歯科医師会と意見交換会を開催し、実習の基本方針等の連携を強化した。

④　全学科の取組みである「健康教育演習Ⅰ」では、本学附属幼稚園において歯みがき指導、「健康教育演習Ⅱ」および「イキイキ健康フェア」では高齢者を対象に口腔体操などを通して他学科と連携し、口腔衛生の必要性、口腔機能の向上を共有した。また、実践を行うことにより各年齢にあったコミュニケーションスキルをアップすることに繋がった。また、企業の健康まつりに参加し、口腔衛生の普及向上を図った。

⑤　キャリア形成教育の一環として実施した「就職フェア」では、38 歯科医院 84 名の参加のもと実施され、「求める歯科衛生士像」「歯科医院の診療方針」などについて面談を行い、学生の意識の高揚となった

⑥　本年度において学生の参加はなかったが教員が参加したアイデアソンの企画が進んでいるところである。

2)　研究実績

①　第 3 回高知学園短期大学 FD・SD 活動研究発表会、その他学会発表、講演等歯科衛生専攻教員の専門とする内容を発表した。

②　外部資金取得に向けては、「科学研究費助成事業セミナー」を受講し、次年度に向けての意欲の向上に努めた。

③　北京大学口腔医学院との交流は令和元年においてはなかったが次年度は実施する予定である。

(4)　看護学科

1)　教育実績

①　新しい教育課程実施の初年度にあることをふまえ、旧教育課程からの移行がスムーズに進み最大限の学習成果が得られるよう、各教員が教育効果の向上を目指した取り組みを行う。

新しい教育課程の中で、1 年次に配置されている「ファーストステップ演習」については、新設科目でかつ看護学科教員が多数関わる科目であることから、共通認識のもと役割分担を行い学生への指導に関われるように事前の打ち合わせを十分に行い取り組んだ。教育効果の評価の一環として、学生が学びのまとめとして取り組んだポスター発表の内容を分析した結果、科目の目的に向かって一定の教育効果を得られたと評価した。

②　臨地実習における学生個々の体験が効果的な学びにつながるよう、昨年度に引き続き、臨地実習における各領域間の連携の見直しをさらに進め、実習内容及び評価方法の検討を行う。

今年度は、特に「個人情報の保護」を強化した実習記録の内容の見直しを実施しながらその効果と課題について検討した。また、定期的に実習報告を行い、効果的な学びが得られているか、それぞれの課題は何か、などを教員間で共通理解し、次の領域実習に活かすことができた。

③　臨地実習施設の継続的な確保のために、実習における具体的な学習成果を提示しながら、実習施設連絡調整会議及び各施設における実習指導者連絡会の効果的な運営を行い、相互理解に基づいた実習施設との信頼関係の強化を図る。

実習施設連絡調整会議は、令和元年 11 月 27 日に本学にて実習施設 9 施設 12 名、看護学科教員 15 名の参加のもと実施した。本学からは、学生の特徴と、それを踏まえた

取り組みについて報告し、実習施設においては、患者への看護の展開だけではなく、学生の看護職者としての姿勢までも指導していただけていることの感謝を伝えた。また、実習施設からも、学生指導に対する熱意あるご意見をいただき、今後の実習に向けて良い意見交換ができ、信頼関係の強化につながった。

④　「戴灯式」や「ようこそ先輩」「生涯学習」などの事業と授業を連動させ、看護専門職としてのキャリア形成支援の充実を図る。

戴灯式（令和元年 6 月 1 日実施）という儀式を通じて、学生が将来の看護職者としての自分を意識し、自己の責任や主体性、協調性を磨く場となるよう教員が意図的にかかわった。特に、全員が倫理綱領をすべて覚えて朗誦できたことは、学生の実習に向けた自信につながったと思われる。

生涯学習（令和元年 11 月 16 日実施）では「養護教諭と看護職者でがん教育を語ろう」をテーマとし、卒業生他 11 名・在学生 6 名が参加し、学校におけるがん教育の現状と課題について具体的なディスカッションができた。

ようこそ先輩は、令和 2 年 3 月に、養護教諭 1 名、保健師 1 名、看護師 1 名の先輩を講師に迎えて実施する予定で企画を進めていたが、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、中止となった。

⑤　ボランティア活動等、課外活動の積極的な推進を通じて、ポートフォリオを活用しながらキャリア形成基礎力の向上・充実に努める。

学生が人や社会のために貢献できる人材となることを目指し、 積極的にボランティアを勧めた結果、のべ 52 名の学生が参加した。活動内容については、学生個々にポートフォリオに記載するよう伝え、自身の努力が社会貢献の一つとして評価できるものであることを伝えた。

⑥　看護専門職としての将来像を想い描き、学生一人ひとりが目指す進路を実現できるよう、各学年で段階を追いながら進学及び就職支援の充実を図る。

教員は、進路支援担当者会において、看護学科と専攻科の学生の就職状況について情報共有を行い、今後の指導の方法について検討した。また、履歴書の確認、小論文・面接指導を行い、学生が就職試験に向けて準備を整えられるよう支援した。さらに、進路について悩みを抱えている学生については、適宜、相談にのり、心配事や不安の解消に努めた。

2)　研究実績

①　各教員が、特に自身の専門領域を意識した学会発表や論文発表を計画的に行う。

看護学科教員の研究実績は、論文 1 編、学会発表 3 編であった。3 名の教員が、それぞれの専門領域において成果を発表することができた。

②　学科全体で共同研究体制を整え、科学研究費等の外部資金の獲得をめざすなど積極的に研究活動に取り組む。

今年度の新設科目である「ファーストステップ演習」は、看護学科教員が多数関わったことから、グループを作って、その内容や成果について、FD・SD 活動報告 1 編、高知学園短期大学紀要 1 編にまとめた。また、次年度の看護協会看護研究学会にて発表する準備を進めた。

(5) 専攻科応用生命科学専攻

1) 教育実績

① 令和元年度入学者 12 名全員が専攻科を修了し、大学改革支援・学位授与機構から学士（保健衛生学）の学位を取得した。

② 「バイオ上級技術者認定試験」を 2 名が受験し、2 名が合格した。

③ 学外活動であるハッピースマイルフェア（12 名）に参加し、骨密度測定や地域方々との交流を通して、臨床検査技師としての実践力を養った。また、本学主催のいきいき健康フェア（3 名）に参加し、地域高齢者の健康づくりに貢献した。

日本対がん協会主催のがん撲滅チャリティイベントであるリレー・フォー・ライフ in 高知（8 名）に参加し、がんやその患者に対する理解を深めた。

全国「検査と健康展」2019 高知（3 名）が参加し、臨床検査技師としての専門性を活かして定期健康診断の重要性を訴え、高知県の健康長寿県構想に貢献した。

④ 第 38 回高知県医学検査学会(高知市)で 2 名の修了生が修了研究の成果を発表した。

また、2019 年度日本臨床衛生検査技師会 中四国支部医学検査学会（第 52 回）（松江市）の学生フォーラムにおいて専攻科生 1 名がプレゼンテーションを行った。

令和元年度高知県臨床検査技師会総会において、平成 30 年度修了生 1 名が修了研究論文を学術研究誌「こうち」に投稿し学術奨励賞を受賞した。

2) 研究実績

（本科に含む。）

(6) 専攻科地域看護学専攻

1) 教育実績

① 平成 31 年度は、学生の主体的な学びを促すため、グループワークやロールプレイ、ケースメソッドなどを取り入れた授業を実施した。ロールプレイでは、学生が実際に対象者又は支援者の役割を体験してみることで、コミュニケーションのあり方や態度を学ぶことができた。今後は、さらに保健師の支援の特徴である継続支援のあり方を学べるよう内容を検討していく必要がある。評価体制としては、いくつかの科目でルーブリックを活用して、学生と教員が共通の項目で到達目標に対する達成度を評価している。また、リフレクションシートを用いて、単元ごとに目標の達成度と課題を整理し、不足分は次の単元で補うことで、到達目標の達成につなげている。さらに 1 年間の節目の時期にポートフォリオを活用し、学生自身が獲得すべき学習成果についてどこまで到達しているかを確認する機会を持った。学習成果の獲得に向けて定期的に確認する作業を通して、学生の自覚を促し、より主体的な学びにつなげられるよう取り組んだ。今後は、学生の学習成果の達成状況やその経時的な変化を分析し、教育活動に生かしていくことが課題である。

② 一般社団法人全国保健師教育機関協議会の定時社員総会と春季研修会や、中四国ブロック会に参加し、保健師教育や看護基礎教育検討会の動向、厚生労働省と文部科学省の考え方や今後の方向性に関する情報を得て、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正案と現行の科目を照合し、内容の過不足を確認した。現在開講している科目については、科目間のつながりや到達目標、授業内容を検討し、各科目が 3 つのポリシーに

基づいて展開されていることが学生にも分かるように、各科目のシラバスに学習成果とのつながりを明記した。今後も指定規則の改正や、教育課程の見直しの動向を確認するとともに、現行の授業内容を検討、改善し続け、令和 4 年度入学生からの新カリキュラムに対応する準備を整えていく。

③　公衆衛生看護学の対象となる人々の生活や地域について、体験の中から学び、理解することができるよう平成 31 年度も公衆衛生看護学概論の科目において、フィールドワークを実施した。このフィールドワークは取り組み開始から 4 年目を迎えている。土佐町で 3 年間実施したのち、一定の効果が確認できたため、平成 31 年度はフィールドを変更し、中山間地域であり、さらに高齢化率の高い仁淀川町の協力を得て実施した。地区踏査や地域で活動している住民組織の活動を聞くことで、自身の日常生活ともつなぎ合わせながら、地区特性や地域の活動を学ぶことができた。事後の学習では、まとめのグループワークの時間を設定し、全体発表の前に体験してきたことをグループ内で共有し、そこから何が考えられるのかを整理する時間を確保した。今後も事前学習、現地での体験、事後学習が一貫して人々の健康と生活を支援する保健師の視点で思考できるよう、グループでの話し合いに対するファシリテーション能力を教員自身が高め、グループワークを充実させていく必要がある。

④　公衆衛生看護学実習では、実習評価の項目のひとつとしてルーブリックを取り入れ、学生と指導保健師が共通の内容で評価を行っている。平成 31 年度は、平成 30 年度に実習指導の保健師との話し合いの中で確認した内容を基にして、実習目標の見直しを行った。実習目標は学生が到達度を確認しやすい表現とし、現状の実習内容を考慮して、実習期間内で達成可能な内　容で目指すべき到達点を精査した。それに伴い、ルーブリック表も修正を行った。平成 31 年度は、実習指導保健師に新たな評価表で実習評価をしたが、特に混乱することなく、記載のしづらさや、改善等の要望はなかった。今後も、国で行われている看護基礎教育検討会の検討結果を踏まえて、実習の到達目標のレベルや最低限の必須項目、評価項目の内容と数等、引き続き、担当教員間で検討しながら、見直しを進めていく必要がある。また、近年、市町村保健師の活動が多岐にわたり、個別支援では困難事例への対応が多くなってきているため、実習機関によって学生が主体的に実施できる項目や、指導保健師に同行して体験できる内容に違いがある。そこで、学生が体験したことを持ち帰り、学内で報告し合い、共有することで体験できなかったことをクラスメイトから学んで、到達目標を達成していくことができるよう配慮し、学びの質を担保していく必要がある。今後の課題として、災害発生時の対応や感染症予防への学校としての取り組み等、健康危機の発生時に実習をどのように実施するかを検討し、学生とリスクへの対応の共通認識を持てる体制を整えることが必要である。

⑤　平成 31 年度は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による特例適用専攻科及び認定専攻科として、審査方法が異なる専攻科が並行して進行する状況であったが、2 年目の取り組みであり、大きな混乱もなく取り組むことができた。また、研究指導体制として、領域ごとに教員が 3 つのグループに分かれ、定期的に話し合いを持ち、全体での検討が必要な場合には学科・専攻科会議に提案し、全体で共通認識をもち、検討して進めていく体制を整えた。また、特例適用専攻科として 3 年が経過したことを受け、今までの体制の中での課題や改善点等について、修了研究に関わる教員が集まり意見交

換を行った。その結果を持ち寄って、指導教員によるワーキンググループで検討し、担当学生の決め方やテーマの選定の仕方等について改善を行った。学生に対しては修了研究の取り組みの前後でリフレクションシートを活用し、1 年間で達成すべき自身の目標を年度当初に明確にしたうえで、最終的に自己評価する形を整えた。さらに、入学前から修了研究に対する準備性を高めるために、文献検索の方法と図書館の活用についてオリエンテーションするとともに、課題を提示し、1 年間という短い期間での論文作成がスムーズに進むよう工夫した。今後も引き続き、研究指導における課題を検討しながら学生の学習成果の獲得に向けて取り組む必要がある。また、認定専攻科の学生への年間を通じての支援体制を確認し、必要な手続きが抜からないように事務担当と常に連携して取り組んでいく。

⑥　学生の就職、進路支援を効果的に行うために、平成 30 年度から進路支援担当者会を開催し、学生の就職、進路支援を効果的に行える体制を整えている。平成 31 年度は進路支援担当者会を 4 回開催し、学生の進路志望状況や県内外の求人の状況について情報を共有した。また、専攻科入学前に進路希望調査や希望職種別のガイダンスを行い、就職活動が早期から円滑に始められるように支援した。学生個別の就職活動では、応募書類の作成の指導や小論文対策、面接練習などを行い支援した。今後も学生が希望する進路に納得して進めるようにするために、看護学科との連携・支援体制を充実していく

2)　研究実績

平成 31 年度の専攻科地域看護学専攻の研究実績は、学会発表 4 編であった。

※令和元年度国家試験受験状況（参考）

| 学　　科 | | 試験名称 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 全国合格率 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 医療衛生学科 | 医療検査専攻 | 臨床検査技師国家試験 | 34 | 21 | 61.8% | 71.5% |
| | 歯科衛生専攻 | 歯科衛生士国家試験 | 28 | 24 | 85.7% | 94.3% |
| 看護学科 | | 看護師国家試験 | 68 | 64 | 94.1% | 89.2% |
| 専攻科地域看護学専攻 | | 保健師国家試験 | 19 | 19 | 100% | 91.5% |

## ［3］高知中学高等学校

1　事業の概要

建学の精神である「人に信頼される人物の育成」を具現化するため、五つの教育目標（・たくましい心とからだ　・確かな基礎学力　・豊かな情操　・信頼される人間　・自立）及び学校生活の三原則（・正しい身なり　・掃除の徹底　・挨拶の励行）を掲げ、全校教職員・生徒がこれを実践した。

2　事業の実績

(1) 入学生の確保

入学生数を中学校 160 人、高校 220 人確保するために、年間を通じて積極的に広報募集活動に取り組んだ。

① 主な募集活動

・学校案内・募集要項を高知市内及び周辺地区の小学校や県内中学校・学習塾に送付するとともに、小学校・中学校挨拶回り・県内塾回りや公立中学校の進路説明会に参加した。

・6 月に中学オープンスクール、10 月には地区別入試説明会を県内 5 会場で開催した。11 月に本校で入試説明会を開催した。

・7 月から高大連携”医療健康系プログラム”を重点的に発信し、8 月には本校で高校夏休み学校見学会を 5 日連続で開催した。

・中学校受験者を対象に学校説明会Winter を、11 月から 1 月にかけて本校で 3 回開催した。

・高校受験者を対象に学校説明会Autumn を、12 月に本校で開催した。

・本中学校に在籍する生徒のうち小学 6 年生の弟妹がいる家庭に対して、中学受験を呼び掛けた。

・高校推薦入試の受験者増の対策として、部活動顧問からの働きかけを強化した。

・ホームページ及びフェイスブックにて、日々の教育活動を細やかに情報発信した。

・官民の各種イベント行事や地域ボランティア活動に、積極的に部活動単位で参加した。

◇学期ごとの主な募集活動の状況

| | |
|---|---|
| １学期 | 学校案内の部分改訂<br>中 1 入学生の母校恩師への葉書を持参（5 月～6 月）<br>県内公立中学校等主催の学校説明会に参加（西部、横浜、加茂、朝倉、土佐塾薊野）<br>中学オープンスクール開催「小学 5・6 年生のためのオープンスクール」（6/30）<br>（体験授業（英語・数学・理科・家庭・美術）・部活動体験）86 人参加<br>こうち私立中高合同進学フェア 2018 に参加（8/3）<br>高校夏休み学校見学会 Summer（8/21～25）10 人 |
| ２学期 | 県内公立中学校及び学習塾へ学校案内・募集要項等の送付<br>公立中学校及び学習塾を訪問<br>地区別入試説明会（土佐市 9/30、須崎市 10/1、南国市 10/3、安芸市 10/9、四万十市 10/11）5 会場 13 人<br>高知小学校保護者対象の中学校入試説明会（10/21）103 人<br>高知小学校児童のためのオープンスクール（11/5）小中連携<br>県内公立中学校等主催の学校説明会に参加（愛宕、春野、学研）<br>入試説明会開催（入試説明会、体験授業・部活体験）（10/27）90（中 59、高 31）人<br>学校説明会Winter（11/14、12/4）10 人<br>高校入試説明会Autumn（11/23）14 人<br>学習塾訪問 |
| ３学期 | 高校推薦入試（1/10）・一般入試（1/24）（本校、安芸、四万十の 3 会場）<br>学校説明会Winter（1/22）7 人<br>中学入試（2/15、16）、中学２年生転入学試験（2/15）<br>中学Ⅱ期入試個別説明会（2/18、19、20）<br>中学Ⅱ期入試（2/22）、中学特別入試説明会（2/26）、同入試（3/1） |

② 内部進学率の向上（小中高 12 年間の教育連携）

小中高 12 年間の教育連携を推し進めるなかで、高知小から高知中への内部進学率は 50%以上、高知中から高知高への内部進学率は 95%以上を目指し取り組んだ。

［小中連携の取り組み］

・6 月に実施したオープンスクールのうち、高知小の参加者は 21 人（4 年生 1 人、5 年生 4 人、6 年生 16 人）であった。

・高知小児童や保護者に高知中の魅力を伝達するため、10 月に高知小にて保護者 16 人を対象に入試説明会を実施した。

・11 月に本校にて高知小児童を対象としたオープンスクール（授業見学・部活体験）を実施し、5 限目に 5・6 年生を対象に授業体験、6 限目に 4～6 年生を対象に部活動体験を行った。

・中学校教員による小学校での出前授業は、数学教員の都合（担当時数増加）により、実現できなかった。

・天体（月の）観測は、2/10 の 1・2 限目に 4 年生を対象に実施した。

・運動会は過去二年連続で延期となり、本年度は児童の参加を見送った。

・7/11、1 年生が世界の鐘を見学した。毎月 1 日、20 日児童・生徒によるあいさつ運動を計画したが、中高生の参加が少なかった。

・中高吹奏楽コンサートに小学校合唱部が参加した。

・小中の管理職等が出席する連携会議を月例会として開催し、定期的な情報交換を行った。

［中高連携の取り組み］

・11/30、中 3 年生保護者を対象に、高知高校への進学説明会を実施した。各コースからの進学状況、高知高校からの学園短大、リハ大のつながりについても説明を行った。また、高知高校ＰＲ動画の視聴も行った。

・中高合同での教科会及び校務分掌における部会を定期的に開催し、連携を図った。

・6 年間で生徒を育成することに注力することを、ＰＴＡの会等で保護者に説明した。また、顧問にも 6 年間で生徒を育成するよう指示した。

③ 入試結果

・中学校では、3 月に特別入試を実施したものの、志願者が前年度より 8 人減の 121 人であった。

Ｉ期入試で高知小以外の入学者が前年度より 11 人減となったことなどにより、入学者は前年度対比 8 人減の 116 人となった。

高知小からの内部進学率が 4 年続けて 20%台で低迷しており、小中連携教育を軸とした 12 年間の教育連携を一層推進する必要がある。

・高校では志願者が推薦入試で前年度より 7 人増、一般入試で 17 人増となり、内部進学者を含めて前年度より 20 人増の 308 人となった。

入学者は前年度対比 2 名増の 195 人となった。うち、高知中からの内部進学者数は、前年度より 4 人減の 112 人であった。

推薦入試での有力部活動の積極的な生徒勧誘が奏功した一方で、一般入試でそれ以外の受験生の掘り起こしに課題を残した。

◇入学者数の状況

中学校　（単位：人）

| 年度別 | 入学者数 | 入試別内訳 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | Ⅰ期入試 | Ⅱ期入試 | 特別入試 |
| 令和２年度 | 116（121） | 98（101） | 15（16） | 3（4） |
| 令和元年度 | 124（129） | 109（112） | 15（17） | ― |
| 増減 | △8（△8） | △11（△11） | 0（△1） | 3（4） |

※（　　）内は志願者数。

高校　（単位：人）

| 年度別 | 入学者数 | 入試別等内訳 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 推薦入試 | 一般入試 | 内進者 |
| 令和２年度 | 195（308） | 54（54） | 29（142） | 112（112） |
| 令和元年度 | 193（288） | 45（47） | 32（125） | 116（116） |
| 増減 | 2（20） | 9（7） | △3（17） | △4（△4） |

※（　　）内は志願者数。

(2) 教員の資質・指導力の向上と授業改善の推進

教員の指導力向上の取り組みとして、教員一人ひとりが指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、子どもたちの思考を深める方法など、学びに必要な指導の在り方を研究・実践した。

・中学校においては、11/11、1/20、齊藤一弥島根県立大学教授を招聘し授業研究会を実施した。
・高校においては、7、8 月に 5 教科（国数英理社）の教員 5 人が県外大手予備校主催の教員研修に参加し、授業力の向上及び受験指導の向上に努めた。
・学校評価アンケートは、中学校は 12 月に 15 項目について実施した。昨年度結果よりも平均値が 1 項目当たり 1.0 ポイント増加し、肯定的な評価が高まった。また、保護者・生徒・教員の三者の回答数値に開きがある項目があるなど、課題が見られた。高校も 12 月に 16 項目について実施し、教員の授業内容や指導方法の改善に努めた。
・授業研究・研修会への積極的な参加を、昨年度に引き続き推奨した。

(3) 特進クラスの学力引き上げ

特進クラスには、教科指導力のある教員を配置するとともに、授業改善の推進・支援や習熟度別授業・国数英の補習授業、個別指導、休業期間中における勉強合宿等の実施、自主学習習慣の確立に取り組んだ。

[中学校での取り組み]

・ＮＩＥ教育（新聞を活用した授業等の取り組み）を一層推進するため、2 年生を中心に新聞を読んで、継続的にワークシートづくりを行ったり、「こども高知新聞」の「学校特派員」登録し、記事を投稿し掲載された。

・大学受験の中核科目となる英語の実力養成につなげるために、全学年を対象に、外国人指導者（ＡＬＴ）が合計約 400 時間、授業を行った。
・夏期休業期間中 7/23～26、29、30、31 日に課外授業（発展的学習）を実施、8/21～23、26、27 日に補習授業を実施した。
・夏期勉強合宿 8/21～23 に中学生 1 人が参加した。
・昼休み及び放課後にパソコン室を生徒に開放し、生徒が自主的に学習する機会を設定した。また、家庭学習時間調査を 6 月、10 月、2 月に実施し、家庭学習習慣の確立状況を把握させた。
・中 3 年生において、2 学期（9 月～2 月）から国数英の各教科ずつ週 1 回の課外補習を行い、最後まで出席した生徒は 9 人であった。
・12/10、高知県学力定着状況調査に参加し、その結果を個別指導の参考にした。
・上記の調査結果において、前年度調査結果よりも書く能力、読む能力が向上した。
・学則に定められた時数の 87.9％を確保した。
［高校での取り組み］
・習熟度別授業・国数英の補習授業等を継続、充実させた。
・高 2・3 年の英語において習熟度別授業を行った。また、高 2・3 年の数学においては進路に応じて選択科目を構え対応した。
・年間を通じて放課後Ｓ1・Ｓ2 の補習を実施した。また土曜休業日にも補習を実施した。Ｓ1 は年間延べ 1073 人、Ｓ2 は年間延べ 419 人、早朝リスニングは 11 人が受講した。
・高 1・2 年では 4 月と 9 月の 2 回、高 3 は 4 月に 1 回（スタディサポート（国数英）を実施し、基礎学力の定着状況を確認し、向上に力を入れた。
・国公立・難関私立大受験希望者を対象に、8/21～23、かんぽの宿伊野にて夏期勉強合宿（5 教科）を実施。高校生 70 人（高 1 年 24 人、高 2 年 20 人、高 3 年 26 人）が参加した。代ゼミ講師を招いての英語授業も取り入れた。
・夏期補習は延べ 978 人、冬期補習は延べ 379 人、春期補習は延べ 238 人が受講した。また、県外大手予備校講座に高 2 年が 5 人（冬期）、高 3 年が 5 人（夏期）受講した。
・高 1、2 年において 30 年度よりＣlassi（ICT 機器を利用した学習支援教材）を導入し、学年で計画的に課題を配信し、担任が確認・指導した。また、Ｃlassi のポートフォリオ機能を利用し、活動履歴の蓄積を随時行った。
・8/26、27、高 3 年 22 人を対象に進学のための面接・マナー講座（筒井典子先生　人・みらい研究所）を実施、面接の基礎及び実践トレーニングを行った。
・専門外部講師による志望理由書・小論文指導を、新大学入試に対応するため、学年全体で取り組んだ。高 2 年は 3 回、高 1 年 2 回実施した。

（4）進学意識の醸成

中学校では社会における自らの役割や将来の生き方、働き方を考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路選択・決定に導く。高校では生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成、また、これらを通じ、勤労観・職業観等の価値観を自ら形成、確立する。
［中学校での取り組み］
・中 3 年生を対象に「先輩に学ぼう！」と題した職業講話を 6/27 に実施した。看護師・歯科医・アナウンサーなど 14 人を講師に招聘した。

・9/25、創立 120 周年記念講演会において、南極点到達を果たした探検家阿部雅龍氏を招き、「生き方」について学ぶ機会を設定した。
・中 3 年生を対象に短大及びリハ大見学ツアーを 11/28 に実施した。生徒は希望する大学を選択し、各学科の教育活動等について学習した。
・生徒の活動履歴の蓄積を主とした取り組みを継続して行った。
［高校での取り組み］
・高 1・2 年を中心に県内の国公立大学 3 校、大阪・京都の大学 5 校のオープンキャンパスに 1 泊 2 日で参加した。
・高 2 年を対象に県内外 17 の大学・短大等の担当者を招いての大学講義体験講座、また、高 1 年を対象に分野別説明会を実施した。
・学園大・短大及びリハ大との高大連携の取り組みを継続して行った。

(5) 進路指導の実績

・国公立大学への進学者は前年度対比 1 人減の 10 人であった。
・フェローシップ等を通じて、学園大・短大及びリハ大への進学を積極的に呼びかけた結果、学園大に 7 人、短大に 7 人、リハ大に 9 人が内部進学した。
・質的なものについてはなお課題を残しているが、ここ数年、教員の取り組みに変化と積極性が生まれ、変化は間違いなく出始めている。
・大学・短大進学を合わせた、いわゆる大学進学率の変化は次のとおりである。

平成 28 年春　51.2%＋ 3.4%＝54.6%（全国：54.8%）
平成 29 年春　46.2%＋12.8%＝59.0%（全国：54.8%）
平成 30 年春　56.9%＋ 6.4%＝63.3%（全国：54.8%）
令和元年春　63.7%＋ 9.5%＝73.2%（全国：54.6%）
令和 2 年春　64.1%＋ 5.2%＝69.3%

・本校のこれまでの評価方法や評価基準について見直しを行った。

［現役生・浪人生の合格者延べ人数］　（単位：人）

| | 現役生 | 浪人生 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 国公立大学 | 10 | 0 | 10 |
| 私立大学 | 121 | 7 | 128 |
| 短期大学 | 10 | 1 | 11 |
| 専門学校 | 36 | 4 | 40 |
| 各種学校 | 6 | 0 | 6 |
| 合計 | 183 | 12 | 195 |
| 就職 | 5 | 0 | 5 |

＊国公立大学
高知大1、鹿屋体育大1、高知工科大6、高知県立大2
＊私立大学
中央大、東洋大、東海大、駒澤大、亜細亜大、追手門学院大、京都産業大、立命館大、近畿大、京都橘大、桃山学院大、神戸学院大、甲南大、摂南大、徳島文理大、松山大、高知学園大（7）、高知リハ大（9）、高知学園短大（7）

［現役生の進路（卒業者数201名）］　（単位：人）

| | 人　数 | 割　合 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 4年制大学 | 123 | 64.1% | 関東8%、関西37%、中国15%、高知を除く四国13% |
| 短期大学 | 10 | 5.2% | 高知学園短期大学　7人 |
| 専門学校 | 35 | 18.2% | |
| 就　　職 | 5 | 2.6% | 自衛隊1人、高知県警1人、企業3人 |
| その他 | 19 | 9.9% | 各種学校6人、浪人3人、未定5人、その他5人 |
| 卒業者数 | 192 | | |

(6) 防災教育の取り組み

南海地震等の大規模災害から命を守るための意識づけや取り組みについて、被災地訪問や防災訓練などを通して学び実践した。

・6 月に幼・小・中高合同の避難訓練を実施した。
・7 月に避難所の人権について講演会を実施した。
・8 月に高校生徒会 2 人が高知県高校生津波サミットの取り組みの一環として、宮城県の被災地を訪問した。
・9 月、12 月に高校生徒会が旭東小学校区防災連合会の訓練の様子をまとめた「旭東小学校区防災連合会だより」を作成、校区の各班に配付された。
・10 月に高校生徒会が高知県高校生津波サミットに参加し、防災の取り組みを発表した。
・12 月に旭東小校区防災連合会と合同で、本校体育館で第 1 回目の避難所運営訓練を行った。
また、生徒による防災講演会及び防災学習を実施した。
・2 月に高校生徒会が高知市からの要請を受けて、外国人向け避難所ガイドライン（英語版）を作成した。
・非常食は生徒一人当たり 2 日分を備蓄した。

(7) 部活動等の実績

・13の運動部及び1つの文化部が全国大会に出場した。
全国中学校軟式野球大会で中学校野球部及び全国高校総体で柔道男子個人（81kg級）がそれぞれ準優勝した。マーチングバンド全国大会で吹奏楽部が金賞を受賞した。
・新型コロナウイルス感染症の影響により、剣道部、柔道部及び少林寺拳法部が出場権を得ていた全国高校選抜大会が中止となった。

◇全国大会出場の実績

| | 中学校 | 高校 |
|---|---|---|
| 体操部 | | 全国高校選抜大会　男女団体 |
| 剣道部 | 全国中学総体　男女団体、男女個人 | 全国高校総体　男子団体、男女個人<br>全国選抜大会　女子団体 |

| | | |
|---|---|---|
| 弓道部 | | 全国高校選抜大会　男女個人 |
| バレーボール部 | 全国中学総体　男子 | 全国高校総体　男女<br>全日本高校選手権　男女 |
| テニス部 | | 全国高校選抜大会　男子個人 |
| ライフル射撃部 | | 全国高等学校選手権　男子個人 |
| 空手道部 | | 全国高校総体　女子個人 |
| 水泳部 | | 全国高校総体　男子個人 |
| 柔道部 | 全国中学総体　女子個人 | 全日本カデ柔道体重別選手権大会　男子個人81kg級（準優勝）、<br>全国高校選抜大会　男子個人 |
| サッカー部 | 全国中学総体 | 全国高校総体（ベスト16） |
| 野球部 | 全国中学校軟式野球大会（準優勝） | |
| 少林寺拳法部 | 全国中学生大会　女子個人 | 全国高校選抜大会　男子 |
| 陸上部 | 全国中学総体　女子個人<br>ジュニアオリンピック陸上競技大会　男女個人 | 全国高校総体　男女個人、<br>男子やり投げ（第6位） |
| 吹奏楽部 | マーチングバンド全国大会　金賞 | |

（8）施設設備の改善と充実

・6 月に第 1 パソコン室のパソコン一式を取替整備した。

・2 月に旭グラウンド屋根付きピッチング練習場の照明を新設した。

・3 月に旭グラウンド場内植樹計画の 4 年目として、場内に桜の若木を 10 本植樹、記念セレモニーを実施した。

3　人事計画の実績

・本務教員は計画より 2 人減の 68 人（期限付講師 3 人を含む）、兼務教員は計画より 3 人減の 15 人であった。

・本務職員は計画通りの 5 人（本部職員 1 人を含む）、兼務職員は計画より 1 人増の 14 人であった。

## ［４］高知小学校

１　事業の概要

教育方針である「紳士・淑女（まごころをつらぬく子）の育成」にそって、日々の教育実践に努め、高知小学校が目指す子ども像（勉強にうちこむ子、仲良く助けあう子、ねばり強い子、ゆたかな心の子）を具現するために、指導目標、重点目標として次のことを掲げ、日々の教育活動を行った。

(1)　指導目標

①　児童の安全確保を最優先とし、指導の２本柱である「確かな学力の定着」「しつけ指導の徹底」を行う。

②　積極的な学習態度を養うとともに、一人ひとりの個性や可能性を尊重した指導を行うとともに、進路指導の強化･充実を図る。

③　教職員の資質･指導力向上を図り、児童の意欲を引き出す教育実践に努める。全教職員が全児童を把握した上で指導にあたる。

④　幼･小･中高連携教育を推進する。

(2)　重点目標

①　子どもの夢と希望を叶え、保護者の期待に応える学校をめざす。確かな学力の定着としつけ指導の徹底を図るため、１時間１時間の授業を大切にし、その質の向上に努める。

②　教員の資質・指導力向上に向けた研修の充実を図る。教員個々が自己研修による指導力向上に取組む。外部講師招聘による校内授業研究会を開催する。

③　児童募集活動の見直しと強化を図り、募集定員確保に努める。

④　登下校及び学校生活における児童の安全確保に努める。

⑤　総合学園として小学校の位置づけの中で、幼･小･中高連携教育を推進する。（幼稚園からの入学、中学校への進学に視点をあてた連携教育に取り組む。）また、小学校の特色である英語教育の見直しと充実を図る。

２　事業の実績

(1)　日々の授業の充実と学力の向上･定着を図る取組

①　全学年で電子黒板を活用し､授業改善に取り組んだ｡また､６年生はタブレットを導入し、ロボットを使ったプログラミング学習にも取り組んだ。ICT 環境を有効に活用することで、より分かる楽しい授業づくりができた。

②　創立以来、全学年週２時間行っている英語は、ネイティブ教員と専科教員、担任のティームティーチング体制、電子黒板の活用により、一層授業も充実してきた。また、朝の挨拶や校内放送を英語で行うなど、学校生活でも英語に慣れ親しむよう取り組んだ。

③　今年度も全国学力学習状況調査を実施した。本校６年生の国語Ａ・Ｂ、算数Ａ・Ｂの平均点は、ともに全国平均より７～８ポイント高かった。今後も調査結果を分析し、引き続き学校全体で取り組んでいきたい。

　また学習状況調査結果については、将来の夢や目標を持っている児童が 94.1%(全国 83.8%)、学校以外で１日２時間以上勉強している児童が 72.5%(全国 29.6%)と多く、新聞を

読んでいる児童が 64.7%(全国 38.7%)いるということがわかった。今後も、学校と家庭が連絡を取り合いながら「知・徳・体」のバランスのとれた子どもたちを育成する。

④　全学年で、10 分間の計算テスト、漢字テストを行い、基礎学力の定着を図った。パーフェクト賞（100 点）を設定していることが取り組みの励みとなった。

⑤　５・６年生は実力テストを実施し、理解度・学力を確認するとともに、補習等を通して理解の定着を図った。実力テストは、中学校進学へ向けての大切な指標ともなり、中学校入試へ向けての意欲づけになった。

(2)　教員の資質･指導力向上に向けた研修の充実

①　「論理的に思考し、自分を表現することのできる子どもの育成」をテーマに 11 月 22 日に本校で高知県国語教育研究大会を開催し参加者から高い評価をいただいた。また、全員が年間を通して１回以上の研究授業を行い指導力アップに繋げるとともに全学年で講師を招聘し校内授業研究会を開催した。

②　全教員が市教研（高知市教育研究会）の授業研究会に参加し、各教科別に研究会に参加した。また、特別支援教育については、高知リハビリテーション専門職大学の先生を招聘して支援会議を行い、具体的な支援方法を学び実践に繋げることができた。総合学園として今後も継続して取り組みたい。

(3)　学習や生活面での充実を図るための支援体制の確立

①　学校カウンセラーは、週８時間（火曜日と木曜日に各４時間）体制で６年目を迎えた。児童･保護者･教員が毎回相談をしており、悩みの解決や児童の学習・生活面での意欲向上に大きく寄与した。特に友人関係での相談が多く、相談内容についてカウンセラーと担任が話し合うことで、早い段階での課題解決に繋がった。

②　特別に支援を要する児童については、個別支援シートに基づいて、定期的に支援会議を開催した。具体的な指導方法を話し合うとともに、支援員が学級に入って支援を行うことで、子どもの変容に繋がった。また、関係機関との連携を図りながら一人ひとりを大切にした地道な実践を行った。

③　基本的な生活習慣の大切さについて、全校集会や学級指導で訴えるとともに、日常の学校生活の中で人に迷惑をかけないことや嫌がることをしないこと､思いやりを持って友達に接すること等を指導した。また、明るく元気に学校生活を送ること、ものごとの良さや美しいものに感動することについても機会あるごとに伝えた。

④　QU アンケート（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を実施し、子どもたちの「やる気」や「学級内での居場所があるか」等を分析･検討して、よりよい学級集団づくりに繋げた。

　学校カウンセラーが担任に分析･検討結果を話す中で、子どもの変容に至る指導過程が明らかとなり、他の学級での指導に役立つ提案がされるようになってきた。また、友達関係での課題の早期発見･早期解決をめざし、子どもの心のサインを見落とすことがないように、子どもへの声がけや家庭への連絡を密に行い、いじめやトラブル等の未然防止に努めた。

(4)　登下校及び学校生活における児童の安全確保

① 登下校時の安全確保の観点からスクールバスを利用する児童が多いため、4台運行体制を継続した。また、1・2年生の交通安全教室や全校児童対象の乗り物別指導を行うとともに、マスク着用や乗車時手指消毒などスクールバス利用における感染予防を徹底した。

② 災害緊急時の対応として、6月10日に幼小中高合同の避難訓練を行った。また、緊急時の備蓄食料として飲み水と乾パンを購入した(毎年購入)。

③ 学期に1回、校舎内外に危険場所がないかを点検し、安全確保に努めた。

(5) 総合学園の中の小学校としての幼･小･中高連携教育の推進

① 幼小連携教育では、各学年と園児が有意義な交流ができるよう年度始めには年間計画を見直し、年度末には反省会で成果と課題を出し合った。1年生と年長児が一緒に英語を学んだり、お弁当を食べたりの活動を通して小学校生活への期待感を育てるような交流も取り入れた。

② 小･中高連携教育では、毎月1回の定例会を開催し、児童･生徒が一同に会して交流できる機会を多く持つようにした（中学校での部活見学、1年生の世界の鐘体験、4年生の月の観察、5年生の授業見学、陸上記録会に向けた合同練習)。今後も中･高校生の持つ技量の素晴らしさにふれることで、中･高で学ぶことへの意欲を育て、中学校への進学児童の増大に繋げていきたい。

3 募集活動

(1) オープンスクール、学校校説明会、新聞広告、園訪問や体験入学、またRKC主催のイベント「すこやか2019」に参加するなど、募集活動に努めた。

(2) 基礎学力の定着と向上に向けた学習指導、きめ細かな生活指導を継続することで、保護者の信頼を得て、高い学校評価に繋がるように努めた。

(3) 子どもたちが生き生き活動している様子や本校の特色ある取り組みを広くアピールするため、ホームページと学校案内のリニューアルを行った。

① ホームページでは、学校行事等日々の子どもたちの様子をリアルタイムで掲載し、保護者からも好評を得ている。

② 高知幼稚園からの入学者は、16名（前年度比＋3名）であった。兄弟姉妹関係にもよるが、今後も幼小のより良い連携のあり方を探り、小学校の取り組みを広くアピールしていく必要がある。

③ 令和2年度入学児童の選考においても、オープンスクール参加者、学校見学者の出願率が高かった。日常の学習や生活の様子を直接参観して、学習に取り組む意欲や姿勢、積極性などが、評価されたものと思われる。保護者の学校評価は教員の指導力や取組姿勢と密接な関係があるので、さらに教員の指導力・資質の向上に努めたい。

④ 入学考査の実施回数をこれまでの前期・後期の2回から1回（合格者が定員を充足しない場合は、再募集）とした。その結果、再募集も含めて受考者数 71（昨年度比+19)、合格者数64（昨年度比+19）であったが、辞退者が多かった。次年度に向けて、入試日程を再考したい。

［入学者状況］

| | 受考者 | 合格者 | 入学者 | 欠席・辞退 |
|---|---|---|---|---|
| 令和２年４月入学 | 71 | 64 | 56 | 欠席４･辞退７･転出１ |
| 31 年４月入学 | 52 | 45 | 45 | 辞退１ |
| 30 年４月入学 | 69 | 58 | 57 | 欠席１・辞退１ |
| 29 年４月入学 | 63 | 62 | 61 | |
| 28 年４月入学 | 46 | 45 | 45 | 県外転出１ |

４　人事計画

(1)　全学年２クラスであり、合計 12 クラスであった。

①　本務教員は 17 名、兼務教員は 10 名であった。

本務教員（学級担任 12 名、英語専科１名、音楽専科１名、養護教諭１名、教頭１名、校長１名）

兼務教員（理科１名、音楽１名、書写２名、図工１名、英語１名、TT 教員２名、習い事２名（ピアノ）

②　本務職員は１名、兼務職員は、６名であった。

５　教育・研究実績

(1) 児童のために実施した諸活動

①　読み書き・計算の強化（全校漢字・計算テスト）
漢字･計算を年間 13 回実施

②　朝の読書、保護者による読み聞かせ

③　美術館･商店･工場見学
高知県立美術館・高知市文化プラザかるぽーと見学
２年生、木曜市見学。３年生オーテピア、高知城見学

④　防災学習、避難訓練を幼稚園・中学校・高等学校と合同開催

⑤　校内植物教室や舞台芸術の鑑賞、映画教室開催

⑥　高知幼稚園との交流学習

⑦　創立 120 周年記念学習発表会を高知幼稚園と合同開催

⑧　TT の継続（配慮の必要な児童への支援を実施）

⑨　「こども高新」「声ひろば」等への投稿

(2)　児童が受賞したコンクールや作品展、大会

第 70 回こども県展　　総合優秀校　　毛筆最優秀校　　硬筆優秀校

【推薦】毛筆　２名　　硬筆２名

【特選】毛筆１３名　　硬筆２６名　　図画８名　　条幅２名

夏休み学習旅行招待

作文の部【入賞】１名　　【佳作】１名

図画の部【入賞】２名　　【佳作】５名
（一次合格者　　書写１０名　作文１５名　図画２１名）

ＭＯＡ美術館高知児童作品展
図画【ＭＯＡ美術館奨励賞】　１名　【高知県知事賞】１名　【高知市長賞】１名
【高知県議会議長賞】　１名　【高知市議会議長賞】１名
【高知県教育長賞】　１名　【高知市教育長賞】１名
【高知県小中学校長賞】　１名　【さんさんテレビ賞】１名
【金賞】５名　【銀賞】８名　【銅賞】４名
書写【金賞】３名　【銀賞】１名　【銅賞】３名

第 67 回統計グラフコンクール（本校は約 30 年以上、高知県の指定となっています）
第１部（１・２年生）【知事賞】１名　【入選】１名　【佳作】２名　【努力賞】２名
第２部（３・４年生）【知事賞】１名　【教育長賞】１名
【入選】２名　【佳作】１名　【努力賞】３名
第３部（５・６年生）【知事賞】１名　【教育長賞】１名　【努力賞】１名

第 54 回美術教育総合展
立体の部　【特選】６名　【入選】２０名
描画の部　【優秀】３名
自由平面の部　【特選】１名
毛筆の部　【特選】３８名　【優秀】２５名　【入選】２１名

青少年読書感想文コンクール　高知県【優良】１名　【入選】３名

こども小砂丘賞作文コンクール【最優秀】１名　【優秀】２名　【優良】１４名

高知「環境絵日記」【えこらぼ賞】１７名

令和元年度環境標語【優秀】１名

第 29 回市民憲章「こんなまちにすみたい」図画コンクール【特選】２名　【入選】６名

第 69 回全国小・中学生作文コンクール【高知県教育文化祭賞】１名　【読売賞】６名

第 72 回高知市科学展覧会【高知市議会議長賞】１名　【優秀賞】２名

「平和への思い」作品コンクール　毛筆の部【優秀】１名　標語の部【優秀】１名

国際平和ポスターコンテスト【最優秀賞（全国佳作）】１名　【優秀賞】３名

JA 共済書道・ポスターコンクール
ポスターの部　【佳作】１名
半紙の部　【銀賞】１名　【銅賞】１名　【佳作】１名
条幅の部　【銅賞】１名　【佳作】２名
第 20 回高知県学生書道展
半紙の部　【特別賞】３名　【金賞】８名　【銀賞】１６名　【銅賞】１８名
硬筆の部　【特別賞】２名　【金賞】８名　【銀賞】１５名　【銅賞】２２名

条幅の部　【安芸市教育長賞】１名　【金賞】３名　【銀賞】７名　【銅賞】４名

税のマンガ 2019 コンクール　【優秀賞】１名

第 20 回社会科自由研究作品展【植木枝盛賞】１名　　【自由のふるさと賞】１名

速読甲子園　小学校５年生の部　【金賞】１名

高知みなとまつりこども写生大会　【金賞】１名

第５回宿毛マラソン　１・２年生男子の部　【第１位】１名

第 65 回高知市陸上記録会　男子ピッタリリレー　【第１位】４名

第 43 回ピティナコンペテション　中国地区本選　【優秀賞】１名

第 21 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA　香川地区大会　【金賞】１名　【銅賞】１名

第 17 回ハイゴールドカップ争奪フクヤスポーツ　低学年大会　【優勝】　高知イーグルス

第２回高知県小学生野球連盟３年生大会　【優勝】　高知イーグルス

第 86 回ＮＨＫ全国学校音楽コンクール　銀賞

毛筆・硬筆・図工は専科の教員が指導にあたった。また、開校以来、作文教育に力を入れ、日々の日記指導などに活かしている。本校が開校以来『めざす子ども像』として掲げている「ねばり強い子」「勉強にうちこむ子」「豊かな心の子」「仲良く助け合う子」に向けて、児童１人ひとりが自己を見つめ精進していこうとするところに、本校教育のめざす基本的な特色がある。

(3)　その他の事業実績

進学状況（高知中学校への進学率 27%）

高知 14 名、土佐 9 名、学芸 7 名、土佐塾 10 名、土佐女子 3 名、明徳 1 名、
ラサール 3 名、愛光 2 名、公立 2 名　　（卒業生 51 名）

５　施設設備等の改善と充実

(1)　児童女子トイレ便器の改修（６基 ）
(2)　電子黒板６基設置（計 12 基）
(3)　タブレット６年児童・教職員分導入、教職員ノートパソコン入替
(4)　ホールエアコン設置
(5)　鉄琴１台、教卓 12 台購入
(6)　児童教職員保護者による校内塗装
(7)　通学バス１台入替

## ［５］高知学園短期大学附属高知幼稚園

１．事業の概要

「幼児自ら気づき、考え、行動することのできる『生きる力』の基礎を養うと共に、心身共に健康でたくましい子どもを育成する」を目的とし、4 項目の重点目標を定め、その達成に向け取り組んだ。

（１）入園児確保のためにより効果的な募集活動をする
（２）幼児は五感を通した豊かな体験をし、心身ともに健康でたくましい子どもに育てる。
（３）教職員は実践的な研修・資質向上に努め、子どもに「生きる力」の基礎を養う。
（４）地域や家庭、学園内組織との連携を更に深める。

上記の重点目標は、概ね達成され、継続を必要とすることについては日々努力している。

２．事業の実績

（１）入園児確保に向けた取り組みでは、校務分掌の園児募集・園開放担当者を中心に年間計画をたて内容の充実に努めた。

①令和 2 年 3 月までの来園者数のべ 39 名、そのうち令和元年度、もも組入園児 1 名、たんぽぽ組入園児 6 名、令和 2 年度年少入園児 12 名、年中入園児 4 名、年長入園児 4 名。
②1 年間の「あそびにおいでよ」の予定表を渡し、季節にあった作品を作り持ち帰った。
③年 4 回体験入園説明会を実施した。（R1 年 9 月 21 日（土）・10 月 16 日（水）・11 月 16 日（土）・R2 年 1 月 22 日（水））また、随時説明も数組の保護者にした。
④ホームページによる園紹介と、各学年の保育の様子を毎週末ブログに載せ、園での取り組みを紹介した。
⑤募集チラシを折り込み広告として年 2 回配布した。また、小学校に在籍する家庭数と・園児の家庭にチラシを配布し入園児確保の声かけをしていただくようお願いした。
⑥学園内組織との連携交流を実施し、特に小学校との交流は本園が高知県下で唯一の総合学園であることをアピールすることができた。
⑦子育て応援団 すこやか 2019 に参加し、園児の発表や園紹介をした。
ブースでは、サンバイザー作りをしてもらい、対象となる保護者に「園開放のチラシ」・「体験入園説明会のチラシやパンフレット」を説明しながら配布していった。
その結果、常に、園開放時 2～3 名程度の来園者があり、入園につながった。
⑧RKC 子育て応援団に協賛し、キャンペーン CM を流す。（TV、ラジオ）現在も継続中。

入園者数の状況

| | 学　年 | 在園児数実績（5 月 1 日現在） | |
|---|---|---|---|
| | | 令和元年度 | 令和２年度 |
| 満 2 歳児 | たんぽぽ | 12 | 13 |
| 満 3 歳児 | | 2 | 4 |
| 3 歳児 | もも | 27 | 34 |
| 4 歳児 | ゆり | 28 | 35 |
| 5 歳児 | ばら | 45 | 34 |
| 合　計 | | 114 | 120 |

（２）幼児は五感を通した豊かな体験をし、心身ともに健康でたくましい子どもに育てたい。そのためにめざす子ども像として「すこやかな子」「思いやりのある子」「よく考える子」を基本にした。年間行事を通じて四季折々の日本の伝統文化を学んだり、学園内の豊かな自然環境を活用して子どもが、興味や関心を持って意欲的に取り組む感性豊かに育つよう指導を心がけてきた。

（３）教職員は実践的な研修を積極的に積み、子どもの「生きる力」の基礎を養うために自らの資質向上に努めてきた。

①園児一人ひとりの 4～5 月の姿から、指導･援助･かかわり方をどのようにしていくのか、学級実態報告をした。その上にたって、全員が年間を通して 1 回の園内研修･事例研修を行い、資質向上に努めた。また、令和元年の研究テーマは、「幼児の発達を促すための適切な教師の援助や環境の構成とは？　～正しい幼児理解と指導の過程を振り返り、改善していくために～」の研究をしてきた。年度の終わりには、1 年間の実践をパネルにし、保護者に見ていただいた。

②保育者一人ひとりが週日案及び、指導計画の作成をし、日々、保育を実践したことの反省･記録を書いてきた。そして、週末には週日案の記録を園長に提出し、コメントを入れ、明日への保育に繋げていけるよう資質向上に努めてきた。また、私立幼稚園研修、ミドルリーダー研修、などに参加し、その指導力の向上に努めている。

③平成 30 年度より「新幼稚園教育要領」が全面実施となり、幼児教育の見直しを図り、真摯に学び、実践で検証し、幼児のよりよい育ちと生活に繋げていくよう、研修を行っている。

（４）地域や家庭、学園内組織との連携を更に深める取り組みとして

①総合学園としての教職員連携体制を年間計画に位置づけ、継続性のある幼児教育を進めてきた。幼小連携では、年度初めに年間計画を見直し、交流学年と事前･事後の話し合いをしてきた。そして、年度末には反省会をし成果と課題を出し合い、次年度につなげている。特に年長児にとっては、小学校への期待感が大きく膨らんでいる。また、英語指導に専門教員が学年ごとに入ってくれている。園児は喜んでこの時間を待っている。

②学園創立 120 周年記念行事として、幼小合同学習発表会を開催し、年少から年長までの園児が、小学校のホールを会場に、ステージ発表を行った。
緊張しながらも発表することができ、子どもたちには、大きな自信となった。

３．人事計画

4月当初から5クラス編成（満3歳児を含む）となる。園長を含め本務教員5名、兼務教員10名（時間講師3名を含む)、兼務職員5名、計20名で担当した。

４．教育・研究実績

（１）教職員の資質向上

①文献、幼稚園教育要領指導書を輪読するなど、教育内容を検討した。

②研究保育、研究協議を行い、園内事例研修の場を持った。

・各職員が園内研修(園内の職員で保育を参観しあい、その後協議をする)を5回実施した。協議内容は、園の研究テーマに基づき、視点を持って子どもの姿を振り返り、記録したことを、各々意見を出し合い、園全体として保育を高めてきた。

・各クラスが事例研修協議を行った。(1学期に1回)
事例を共有して、子どもの育ちや保育者のかかわりなどについて、よかったことや改善することを確認し話し合った。

・本年度の研究テーマについてレポートを書き、年度末に1年のまとめとして冊子（「なのはな」17号に記載）を作成した。

③研究会・研修会への参加

・私立幼稚園連合会夏季研修会、幼児教育研究協議会に参加し、保育の質を高めた。

・ミドルリーダー研修等に参加し、資質向上に努めた。

（２）学園内組織との連携

高知学園短期大学幼児保育学科や生活科学学科、医療衛生学科、高知リハビリテーション学院言語療法学科、中学高等学校との連携を密にすると共に、高知小学校とのきめ細かな連携を深め幼児教育の連携を進めた。

①幼児保育学科との連携

・教育実習（R1、6.3～6.29）実施

・観察実習（R2、2.17～2.22）実施

②生活科学学科との連携

・クリスマスケーキ作り（R1.12.23）実施…24家庭親子参加

③医療衛生学科との連携（歯科衛生専攻）

・学生による歯磨き指導（年長児を対象）を実施（R1.5.17）

④各学科との健康教育（全園児対象）の実施（R1.5.18）

⑤高知リハビリテーション学院との連携

・園児（年中・年長児）が訪問し、学生と交流実施（言語療法学科）(R1 11.22、12.6)

・全園児の体力測定を行った（理学療法学科）(R1.9.9)

⑥短大学園祭に参加した。(R1.10.26)

⑦幼小連携を強化し、活性化を図った。

〇小学校1年～3年、5年生の各学年と交流

・令和元年　6月3日（月）読み聞かせ（3年生と全園児）
・　　〃　　6月6日（木）さつまいものつる植え（2年生と年長）
・　　〃　　6月17日（月）田植え体験（5年生と年長）
・　　〃　　6月13日（木）学校探検（1年生と年長）
・　　〃　　7月20日（土）「すこやか2019」でのステージ発表（年長と小合唱部）
・　　〃　　10月7日（月）お米の収穫（5年生と年長）
・　　〃　　10月15日（火）英語で遊ぼう（授業参加）（1年生と年長）
・　　〃　　10月11日（金）12日（土）幼小合同学習発表会（年少～年長児）
・　　〃　　10月21日（月）誕生会での歌の発表（3年生と全園児）
・　　〃　　11月11日（月）芋ほり（2年生と年長）
・　　〃　　12月5日（木）おいもパーティー、昔遊び（2年生と全園児）
・令和２年1月17日（金）授業参加･お弁当（1年生と年長）
〇年度末に交流のまとめの冊子作成をした。

（３）異年齢保育の取り組み
〇グループでの遊び等を通して人間関係を持ち、思いやりの心を育てるように取り組んだ。
・学園内のお散歩、栽培活動、焼き芋パーティー

５．その他
（１）交通安全、避難訓練（地震、火災、水害）、防犯訓練等を継続的に行い、安全確保に努めた。
①交通安全教室（R1.11.25）実施
②避難訓練の実施（毎月）
③東日本大震災から9年が経過し、生命の大切さを改めて知り、避難訓練実施の重要性を認識している。
（２）地域とのかかわり
①運動会、バザー・作品展、表現発表会等に招待し地域の方々にも見学に来ていただいた。

## ［６］高知リハビリテーション学院

１．重点目標と取り組み
医学的リハビリテーションに関する高度で専門的な知識と技能を習得した至誠心に富み信頼される「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」を教育・養成するという基本方針の下、今年開学した高知リハビリテーション専門職大学と連携し、重点目標として主要な4項目を定め、積極的に取り組んだ。

〔主要な項目と令和元年度の取組み〕
（１）先進・進取の伝統の継承と発展
全国に先駆けて医学的リハビリテーションを我が国の職業教育に導入した本学院の先見性と培われてきた伝統を継承し、柔軟な発想と思考性のもとでの授業の展開等に努めた。また、

医療の高度化・複雑化、リハビリテーション医療に対するニーズの増大や多様化に対応することができるように疾病の予防や介護予防、健康寿命の延伸、地域包括ケアーなど、国の社会保障政策を見据えた教育を推進した。

（２）有為な人材、信頼される療法士の育成

現場に即応できる有為で信頼される人材を育成していくため、学生一人ひとりに応じ、４年間での到達度を設定したプログラムをもとに定期的に個別面談を実施しスタディ（学習）・ソーシャル（社会性）双方のスキル（技能）をアップさる指導を行った。

国家試験対策としてリーディングスキルテストによる読解力の把握、模擬試験・学内成績、学院での生活態度や人間関係などを考慮し、少人数グループ編成による調べ・シェア学習を主体に実施した。また、学院内外の講師による特別講義、模擬試験（週 1 回）、学習相談などの個別指導を行った。模擬試験の実施は学習目標・課題の設定、学習到達度の確認などに有用であり、特別講義、個別指導は、疑問点の解消につながりモチベーションを高めることができた。

しかし一方で、欠席が常態化した学生や生活リズムが怠惰な学生、精神心理的問題を抱える学生に対しては、面談だけではなく、保護者への報告や協力を依頼するなどの対応をしてきたが、十分な行動変容にまでは至らず、今後の課題となった。

（３）先駆的な教育・研究環境の整備

医療をはじめとする社会保障政策の中でリハビリテーション医療の方向性も、超急性期医療から地域包括ケアー、特に在宅医療（リハ）や終末期ケアー、認知症の患者さんに対するアプローチなど、より高度で多様化してきている。特に教育面では、平成 27 年度より大学化に向けた教育環境整備事業の一環として導入いたしました①臨床技能シュミレーターシステム、②生活行為向上システム、③高次脳機能障害評価システムなどの活用により、3 年次生を中心により実践に即した教育を行った。

（４）地域とともに歩む学院づくり

土佐市及びその関係機関等との連携のもと、市民や地元学校と提携した体力測定、健康教室の開催、放課後チューターへの参加（ゼミ授業）、介護認定審査会への参加、地域ケアー会議への参加、児童発達支援授業への参加（協力）、また、大綱祭りや土佐市ふれあいフェスタなどの土佐市の行事にも積極的に参加し交流を深めた。

２．教育研究計画

（１）学生のスキルアップ

補講や休暇を利用した授業などにより、基礎学力の向上を図るとともに、専門知識、技能の修得のために必要な基礎教科の重点的な教育指導を進め、学生のスタディスキルをアップさせていく取り組みを進めた。

また、療法士に大切なコミュニケーション能力の向上、社会人としての礼節、至誠心といったソーシャルスキルをアップさせていくため、専門家を招へいした実践研修や実習教育等を積極的に実施した。

（２）教員の研鑽、研究活動の促進

医科学と関連技術の進展著しいことから、教員自ら積極的に専門知識等に関する研鑽を積み、研究に取り組むとともに、それら先進的な知見を教育に反映させる授業構成等に努めた。（論文掲載９件、学会発表７件）

また、日々授業内容や運営の改善・向上に向けた取り組みを進めるため、教授法などの専門研修や教育研究大会へ教員を派遣した。

さらに、全国の臨床実習受入施設の責任者等を招へいし、専門的知見や技術、情報を交換する臨床実習指導者連絡協議会には、184 名（184 施設）が参加、専門職大学の概要説明と実習の流れ、臨床実習における審議事項やリハビリテーション現場で直面する課題などに対する討議と分科会での検討を行った。

３．就職に関する取り組み

教職員一丸となり新規開拓、情報収集等を行うため施設訪問を重ねるとともに、9 月末には高知会館にて就職合同説明会を開催、県内外の 68 施設の人事担当者と学生が直接面談する場を設けるなど、引き続いての全員就職に向け取り組んだ。

総求人件数は 2,005 件、求人数は 7,232 人に上り、就職希望者 109 名のうち、年度内には 104 名（県内に 37 名、県外に 67 名）の就職が内定した。また、進学希望者 1 名も大学院へ合格した。

今後は、学生全員が希望通りの就職ができるように、ガイダンスやマナー講習会、履歴書の書き方など早期の動機づけときめ細かな学生相談を通じて多面的に就職活動を支援していく。また、卒業後のフォローアップを続け、就職情報の提供・再就職のお手伝いをしていく。

４．教職員の状況

本務教員は 9 名、専門職大学との兼務教員 20 名を加え 29 名、そのほかの兼務教員 70 名で、教員の合計は 99 名、職員については、専門職大学との兼務職員 14 名により専門学校の業務に取り組んだ。

参　考

表１：臨床実習

| 学科名 | 学生年次 | 実習期間等 | 実習施設数 | 完了学生数 |
|---|---|---|---|---|
| 理学療法学科 | 2 | 臨床見学実習（１週間） | 37 | 61 |
| | 3 | 臨床短期実習（３週間） | 30 | 37 |
| | 4 | 臨床実習（９週間を２回） | 延べ 111 | 64 |
| 作業療法学科 | 2 | 臨床見学実習（１週間を２回） | 27 | 30 |
| | 3 | 臨床実習Ⅱ（３週間を２回） | 延べ 68 | 38 |
| | 4 | 臨床実習（８週間を２回） | 延べ 57 | 37 |
| 言語療法学科 | 2 | ― | ― | ― |
| | 3 | 臨床見学実習（１週間） | 18 | 19 |
| | 4 | 臨床実習（7 週間を２回） | 延べ 39 | 27 |
| 合　計 | | | 387 | 313 |

表２：国家試験

| 区　分 | 令和元年度 | | | 平成 30 年度 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 合格者 | 合格率 |
| 理学療法学科 | 64 | 51 | 80%<br>(86%) | 61 | 84%<br>(86%) |
| 作業療法学科 | 38 | 31 | 82%<br>(87%) | 30 | 77%<br>(71%) |
| 言語療法学科 | 27 | 13 | 48%<br>(65%) | 23 | 70%<br>(69%) |

・合格率の（　）は全国

表３：就職状況　　（令和 2 年 3 月末現在）

| 区　分 | 令和元年度 | | | | 平成 30 年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 卒業生 | 就職希望者 | | | 就職希望者 | | |
| | | 総数 | 就職内定先 | | 総数 | 就職内定先 | |
| | | | 県内 | 県外 | | 県内 | 県外 |
| 理学療法学科 | 64 | 54 | 15 | 36 | 63 | 30 | 30 |
| 作業療法学科 | 38 | 34 | 13 | 20 | 36 | 21 | 15 |
| 言語療法学科 | 27 | 21 | 9 | 11 | 28 | 12 | 16 |
| 合　計 | 129 | 109 | 37 | 67 | 127 | 63 | 61 |

・求人件数と求人数：2,005 件、7,232 人（平成 30 年度：2,053 件、7,390 人）